



ONE WAKE RECITAL SETSUGU COMMITTEE 2018



etsensin

「1つWAKE発表会2018」発刊にあたって

当法人には接遇を通して顧客の視点を持ち、サービスの質を向上させることを目的とする接遇委員会があります。接遇委員会の活動の中から生まれたのが、1つWAKE発表会や職員模範行動事例紹介です。

1つWAKE発表会は、自分たちの仕事を今よりも“ひとつ上行く”ものにすることや、“WAKE”ーウェイク（気づく、目覚める、行動に移す）というネーミングを主旨として、今年で開催12回を迎えました。

職員模範行動事例紹介は、日々の業務の中で見習うべき模範行動を皆で讃え、実践していくこと、又その模範行動に気付く力を養う意味合いも大きいと考えています。

今回、1つWAKE発表会2018の最優秀事業所賞に選ばれたのは、障がい事業部合同チームの「障がい事業部奮闘記～お伊勢さん菓子博への道～」でした。4年に一度のお菓子の祭典がここ三重県伊勢市において初開催となり、菓子博出店が決まってからの職員そしてご利用様が奮闘した様子を発表いただきました。クッキーの商品開発、いせわんこを象った陶芸など限られた時間の中で最大限努力され、大成功を収めたことが高く評価されての受賞となりました。

職員模範行動事例紹介では、今年度、全事例124件ありました。本来MVP (Most valuable player) は1名ですが、開票すると3名の方が同票という異例事態となってしまいました。そこで当法人が40周年ということもあり、このような素晴らしい職員模範行動事例を皆で讃えようと今回は、3名すべての職員をMVPとさせていただきます。1件目は、自ら何事にも率先して行動され、子どもたちの心をつかむだけでなく周りの職員にも良い刺激を伝染されている保育士さん。2件目は、相手の立場に立ち親切な対応したことから当法人に担当してもらいたいと感謝された、本町福祉用具貸与・販売事業、本町居宅・つまちなか居宅支援センターの職員の皆さん。そして3件目は、当法人ホームページの運営において通常業務に加え、ブログの毎日更新を欠かさず行い、それにより一ヶ月の閲覧数が一万件越えを達成された、法人本部の職員さんでした。

今年で12回目の開催となり、年々取り組む内容に深みが増してきています。この報告書は私達が日々ご利用様の為に頑張っている姿や想いを発信できればと考え、まとめたものです。洗心福祉会の職員一同が各事業所において一年間取り組みました内容や模範行動事例を、ご一読頂ければ幸いです。

最後になりましたが、この取り組みにご協力いただきましたご利用者様、ご家族様、地域の皆様、関係機関各位に厚く御礼を申し上げます。

平成30年5月

ONE WAKE RECITAL
SETSUGU COMMITTEE
2018

社会福祉法人 洗心福祉会
接遇委員長 黒田 昌利

目 次

1つWAKE AWARD 2018 モデル事業所賞	4
---------------------------	---

1つWAKE AWARD 2018 発表会

・ プログラム	6
（特別講演）平成 30 年度交通事故防止諸対策の推進（法人本部総務課）	7
1. 取り組み見える化と習慣化（伊賀短期入所生活介護センター）	11
2. 住み替えていつまでも 我が地域で・・・（サービス付き高齢者住宅つみなみ）	16
3. 地域との関わりをとおして（志摩地区地域密着型センター）	22
4. そうだ！つまちなか地域総合相談センターへ行こう！ ～気軽に立ち寄れる窓口になる為に～（つまちなか地域総合相談センター）	27
5. 障がい事業部奮闘記～お伊勢さん菓子博への道～（障がい事業部合同チーム）	33
6. 人と人との繋がりが生み出す未来（はなこま保育園）	41
7. 伊勢志摩サミットから繋がる心（しまの杜保育園）	53
8. 伝々祭がスタートライン（白塚・鈴鹿ケアサービスセンター）	57
9. 清潔な環境で暮らして欲しい・・・多職種連携での支援・・・ （ふたみ居宅介護支援センター）	61

1つWAKE AWARD 2018 職員MVP受賞者	68
----------------------------	----

職員模範行動事例（124 事例）	70
------------------	----

1つWAKE AWARD 2018モデル事業所賞

事業所名	テーマ	発表者
最優秀賞 障がい事業部合同チーム	障がい事業部奮闘樹	須川 大軌 大井 彩
優秀賞 つまちなか地域総合相談センター	そうだ！つまちなか地域総合相談センターへ行こう！	濱野 実佐 吉安 幸絵

最優秀賞



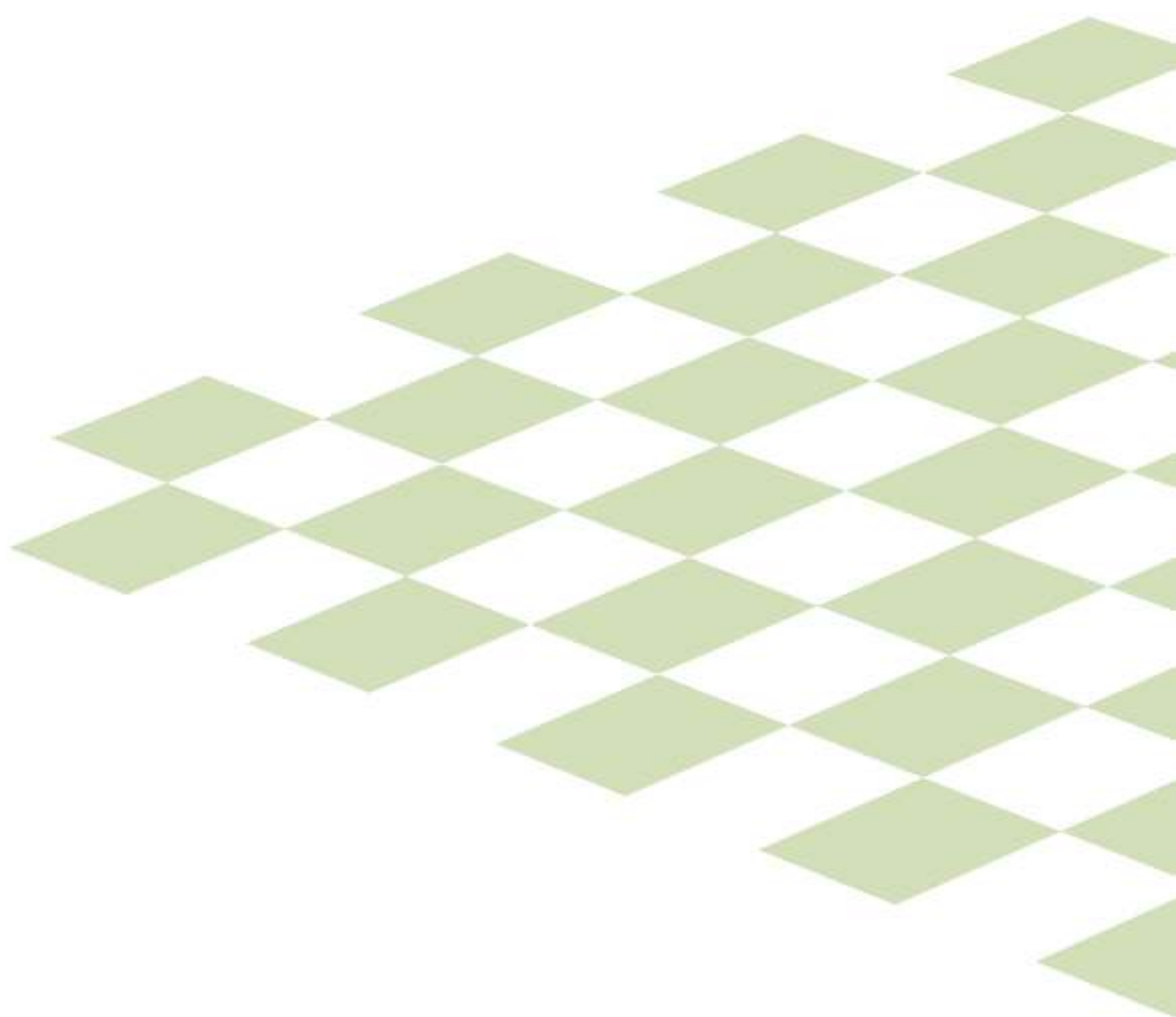
障がい事業部合同チーム

優秀賞



つまちなか地域総合相談センター

ONE WAKE RECITAL
SETSUGU COMMITTEE
2018



1つWAKE 発表会 2018 プログラム

開催日:平成 30 年 3 月 10 日(土) 13:00～17:00

開催場所: 第二はなこま保育園 遊戯室

時 間	プ ロ グ ラ ム		内 容 ・ 発 表 者	
13:00	開会の挨拶		理事長 挨拶	
13:05	開会宣言		接遇委員会 黒田委員長	
13:10	ルール説明・注意事項		・八木施設長・古林園長	
13:15～ 事業所発表: 13:25～ 13:50	特 別	法人本部総務課	「平成 30 年度交通事故防止諸対策の推進」	大谷 勝
	1	伊賀短期入所生活介護	取り組み見える化と習慣化	中森 香奈
	2	サービス付き高齢者向け住宅 つみなみ	住み替えていつまでも 我が地域で...	森山 美穂
	3	志摩地区地域密着型センター	地域との関わりをととして	中北 喜久
14:00	コメント・質問・意見等 (日高 幸一施設長:約 10 分以内)			
14:05～ 14:20	4	つまちなか地域総合相談センター	そうだ!つまちなか地域総合相談センター へ行こう!～気軽に立ち寄れる窓口になる 為に～	濱野 実佐 ・ 吉安 幸絵
	5	障がい事業部合同チーム	障がい事業部奮闘記 ～お伊勢さん菓子博への道～	須川 大軌 ・ 大井 彩
	コメント・質問・意見等 (黒田 昌利施設長:約 10 分以内)			
14:30～ 14:40	休憩(10分)			
14:40	6	はなこま保育園	人と人との繋がりが生み出す未来	脇田 知美 長谷川 由佳里
14:55	7	しまの杜保育園	伊勢・志摩サミットから繋がる心	田中 友実 ・ 中村 歩 濱地 千佐
15:10～ 15:24	コメント・質問・意見等 (米岡 育子園長)			
	8	白塚・鈴鹿ケアサービスセンター	伝々祭がスタートライン	立松 美咲 ・ 山本 博道
	9	ふたみ居宅 介護支援センター	清潔な環境で暮らして欲しい ...多職種連携での支援...	鈴木 貴浩 ・ 横山 健二
15:35	コメント・質問・意見等(日高 利恵施設長約 10 分以内)			
～16:00	投票集計 ・ 休憩			
16:05	職員 MVP2018 発表 ・ 表彰式			
16:25	モデル事業所賞発表(最優秀賞、優秀賞) ・ 表彰式			
16:30	挨 拶 (副理事長)			
16:50	閉会 (受賞者写真撮影)			
17:00	解 散			

平成30年度交通事故防止 諸対策の推進

(take on the challenge again)

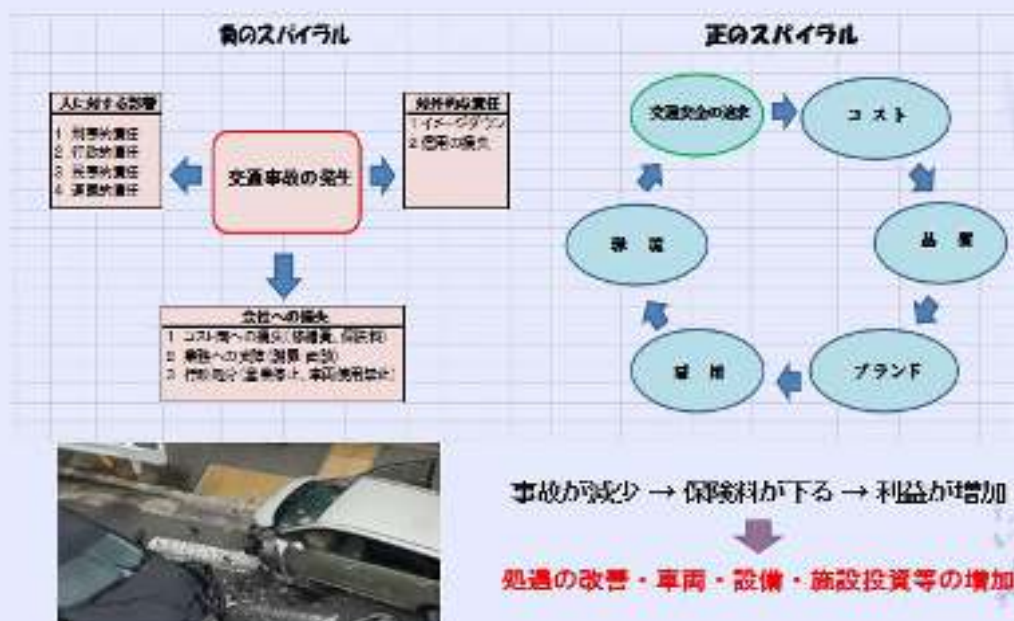
総務課 交通安全推進担当



過去13年間の交通事故発生件数の推移



交通事故の影響



推進項目-1

1 努力目標の設定

- 法人内の交通事故総発生件数 89件以下 ※H28年度件数
- 各施設・前年度-10%

2 交通安全意識の高揚

- 月間重点目標の設定
- 安全呼称の実施(交通安全10則)

3 交通事故の速報制度の導入

- 早期における情報共有
- 時宜を得た施策広報の実施

安全十則

1. 始重・終重点検を確実にしよう
2. 法定速度・標内速度を守ろう
3. 車間距離を十分にせよう
4. 無理な追い越し、追い越しはしない
5. 交差点での減速と安全確認をしよう
6. 左折時には後方確認をしよう
7. バック時には 下車し後方確認をしよう
8. 直進・減速運動にならないように
9. 脇見ながら、思い込み運転はしない
10. 思いやりのある運転・作業をしよう

「ご安全に！」

推進項目-2 交通安全研修会の実施

1 年間計画に基づき実施する安全講習

企業(契約保険会社)の行う交通安全講習会

2 安全管理上の問題点があると認められたとき実施する研修

- (1) 組織内において交通事故が多発(1カ月中に5件以上)発生したとき。
- (2) 施設単位(同一施設)で、交通事故が多発(1カ月中に3件)したとき。
- (3) 同一人物が連続(1カ月中に2件)して交通事故を発生させたとき。

3 運転適性検査の実施

- (1) 施設長が運転適性検査実施の必要があると認めたとき。
- (2) 交通事故分析の結果、運転適性検査の実施が必要と認められたとき。

推進項目－3 研修内容および研修実施方法

1 季節により多発する交通事故の原因を踏まえた安全講習(座学)

- (1) 気候、気温、社会環境により発生する交通事故対策
- (2) 地域環境に応じて発生する交通事故対策



2 施設等から、依頼、要請のあったときに実施する安全講習(座学)

- (1) 職員会議等定期会議席上での安全講話
- (2) 有償運送にかかわる職員に対する交通安全講話



3 交通事故分析に基づき実施する研修(運転実技)

- (1) 交通事故原因に対応した運転実技講習(右・左折、後退、内輪差、外輪差等)
- (2) 運転経験年数等運転技術に対応した運転実技講習
- (3) 運転する車両の種別に対応した運転実技講習



エンディング

事故を起こさないためのABC

- A 当たり前のことを (停止の場所で)
- B 馬鹿にしないで (止まって左右確認)
- C ちゃんとやる (ブレーキを踏むだけ)

「ふとした瞬間や慣れが、この事故を起こさないためのABCを妨げるということもあることを忘れないでください。」

～ 交通事故のない明るい職場 ～

取り組み見える化と習慣化

～習慣が人を変える～

伊賀短期入所生活介護G

中森香奈 

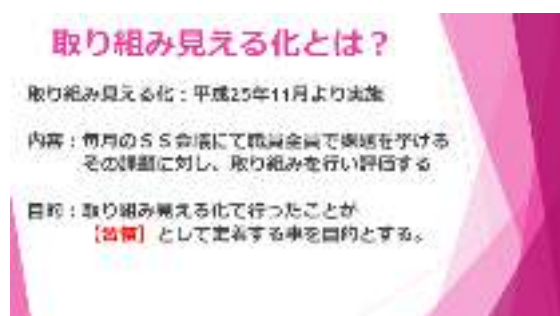




それでは今から伊賀短期入所生活介護グループの発表を行います

豊壽園1年生の中森香奈です、よろしくお願いします

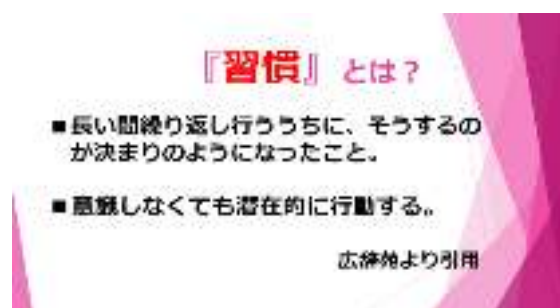
今回の発表では伊賀ショートステイで取り組んでいる「課題の見える化と習慣化」について紹介します



まず「課題の見える化と習慣化」について説明します。

「課題の見える化と習慣化」とは、職員が全体会議を通して毎月課題を一つ挙げ、その課題に対して徹底的に改善を行い、職員に習慣として定着することを目的として平成25年11月より実施しています。課題を目の前にして、人はどうすれば解決出来るのかと知恵を絞り、工夫をします。その活動の積み重ねが人の成長と現場力の向上を促すと考えています。

・・・では習慣とは何か広辞苑で調べると、



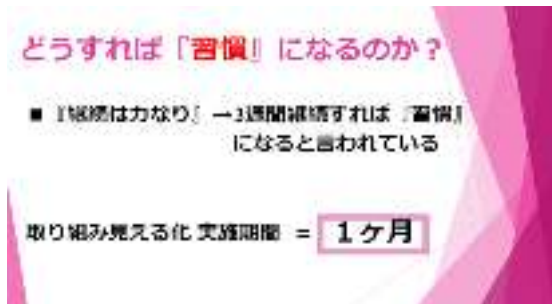
・長い間繰り返し行ううちにそうするのが決まりのようになった事

・意識しなくても潜在的に行動する事とあります。

皆さんは日常生活の中で習慣としていることがありますか？

私は業務でも課題として取り組んだことを職員みんなが意識しなくても行動できるようになればすごく素敵なことだと思いますか？

ではどうすれば習慣になるのか？



・継続は力なり、3週間継続すれば習慣になると言われていますので、「課題の見える化と習慣化」の実施期間は1ヶ月で設定しています。

習慣育成には必要な3要素があり、①知識、②スキル、③やる気であるとアメリカの経営コンサルタントであるスティーブン・リチャーズ・コヴィー氏は唱えています。

・知識…何を、何故するのかという事にこたえられる。



・やる気…それを実行したい、このままではいけないという気持ちであり動機になります。

・スキル…どうやってそれをするのかを示すものであり、実行する方法です。

この3つの円の真ん中には習慣があります。

例えばダイエットで当てはめてみると健康の為、モテる為等の目的があり、それを達成するために体重を減らすことなどのダイエット知識が必要になります。

本当にダイエットがしたいというやる気が湧いてきたら、具体的なダイエット方法を選択して日々努力していくことになります。

問題はこれが習慣化されるか途中で諦めるかです。この3要素のどれか一つでも欠けると習慣にはなりません。習慣化されたものは無理な努力をしなくても自らの生活の一部として行う事が出来るようになります。人が成長し、現状を変える為には、習慣化させることが非常に効果的であると考えます。

取り組み内容

誰のためになぜ行うのか？

- ご利用者様へのサービスの質の向上
- 職員全員のスキルアップ
- 施設にとってメリットになる取り組み

※基本的に1ヶ月の期間で習慣化を目指す方が習慣化出来なかった場合は、継続して取り組む

前置きが長くなりましたが、私たちショートステイの「課題の見える化と習慣化」では、会議の場で、知識「何をしたいか？何故やるのか？」、やる気「職員ひとりひとりの実行したい気持ち」、スキル「自分たちに相応しい方法」を話し合い、共有し、実践しています。



では今からは実際に自分たちが取り組んできた事を一部紹介します。

- 「課題の見える化と習慣化」では
- ・ご利用者様へのサービスの質の向上
 - ・職員のスキルアップ
 - ・施設全体でのメリット

の三つの事を目的として行っています。基本的には取り組み期間を1ヶ月としています。が、会議の場でまだ習慣化できていないと判断した場合には、なぜ出来なかったのか話し合い、もう1ヶ月継続して取り組み繰り返します。

いつでも綺麗な
ホールを維持して
います！



まずは最近取り組んだこととして各居室や暖房の節電についてです。

ご利用者様がいないにも関わらず電気の消し忘れが目立っていました。少しの電力消費も、重なると大きな消費になる為、業務分担を決めて、各居室の換気と共に電気の確認を行うことにしました。今では、職員の習慣として行うことが出来ており、自然と節電に対する意識も高くなりました。

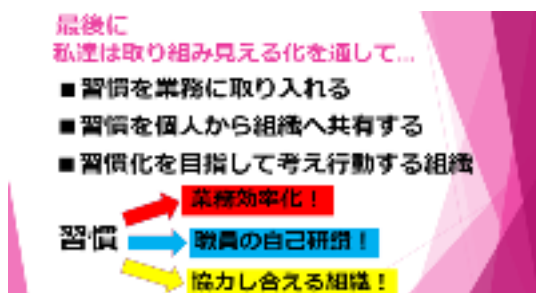
他に取り組んだことを紹介すると、ご利用者様に気持ちよく利用して頂くために、「共有ホールの美化」に取り組みました。この時は1ヶ月では完全に習慣化できたとはいえず、チェック表を作るなどして習慣化を図りました。今では業務の一環として定着しており、誰がいつ見てもきれいだと思える施設になっていると思います。



この他にも「カルテの明確化」を目標に取り組んだり、些細なことかも知れませんが様々なことに取り組み、一つ一つ確実に習慣化して、より良い事業所を目指しています。



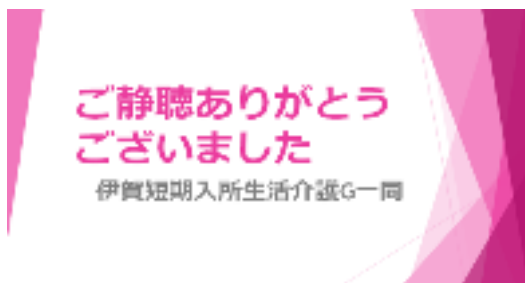
取り組み見える化を始めてからこの4年半で習慣化できたことは全部で19件。
4年半で19件と聞くと一見少ないように思いますが、そのどれもが習慣として当たり前のように出来ていることは、私はとてもすごい事だと感じ、今回、他の事業所の方にも紹介させていただきました。



取り組み見える化を始めてからこの4年半で習慣化できたことは全部で19件。

4年半で19件と聞くと一見少ないように思いますが、そのどれもが習慣として当たり前のように出来ていることは、私はとてもすごい事だと感じ、今回、他の事業所の方にも紹介させていただきました。

私たちは「課題の見える化と習慣化」を通して



- ・ 習慣を業務の一環に取り入れ
- ・ 習慣を個人から組織へ共有し
- ・ 習慣化を目指して考えて行動する組織づくりを目指しています。

この取り組みを通して業務の効率化、事業所のチームワーク、職員のやる気、責任感に繋がるかと思います。今後も習慣化したことは継続して、より良い事業所を目指していきたいと思っています。





こんにちは
「サービス付き高齢者向け住宅つみなみ」の森山美穂です。
今日は1つWAKE発表会という場をお借りして、サ高住つみなみの日常・取組みを皆様にお伝えさせて頂きたいと思います。
「住み替えて いつまでも我が地域で・・・」よろしくお願い致します。

つみなみサービス付き高齢者向け住宅

H28年4月1日 当法人初め！のサ高住が！開所！
静かな住宅街の中に、緑豊かな環境に住宅が



まず初めに、サービス付き高齢者向け住宅つみなみの概要を少しお話ししたいと思います。平成28年4月1日 当法人初めてのサ高住として開設致しました。

居室数23室の賃貸住宅であり、サ高住の職員によって24時間切れ目のない見守りサービスを提供しております。また、中央ヘルプステーションによる定期巡回・随時対応型訪問介護サービスを利用する事により、必要に応じた介護・看護のサービスを受けて、安心して生活をして頂く事が可能です。

馴染みの地で



1人で生活するのが不安・・・調理や洗濯をする事が困難・・・でも馴染みの地域で馴染みの方と関わりながら生活していきたい・・・」そのような方に、なるべく自宅に近い環境で生活をして頂ける場所 それが「サ高住つみなみ」なのです。



現在入居されている方のうち、入居前のお住まいが高茶屋・城山の方が10名。雲出・香良洲の方が4名。その他の津市内から5名程が入居されています。

在宅時と同じサービスを

デイサービス・ホームヘルパーは
継続して利用可能！



また、1人暮らしに不安を感じてみえる方も、「つみなみなら自宅のようだけれど、常に誰かがいてくれるから安心」そう思って頂いています。それでも、身の回りの事全てをしてもらいたいわけではなく「誰かの援助があればまだまだ出来る事はある。

安心の24時間見守り 必要に応じた介護や看護サービス

職員による24時間お宅での見守りサービス！



自分で出来る事は自分でもしていきたい」そう思っていると思います。それを実現できるのが「サ高住つみなみ」なのです。

ある日の風景①



それではここで、つみなみの日常の風景を少しご紹介したいと思います。
■つみなみには中庭が2か所あります。初めは土の中庭だったのですが・・・
昨年6月！

ある日の風景②



こんなに素敵なウッドデッキを作っていただきました。■
今、巷で流行りのガーデンカフェのよう！！ シェードもあるので日差しの厳しい日も影ができて快適です。セレクトな奥様気分ティータイム♪

ある日の風景①

大団円！ 曲の仕上げです～
最後は一緒にマッシュアップ



さうすれば16の曲は聴かせられます！
楽しんで！



こちらは日曜の午後・・・■■日曜は大半の方がいらっ
しゃるのでカラオケや体操をして、盛り上がります！

季節のイベント・・・

季節を楽しく感じよう！



より一層楽しませよう



つみなみは、デイサービスではなく自宅なので、決まった
レクリエーションや行事はありませんが、■■季節を感じる
イベントは皆さん参加型で楽しめます！
右下の写真は法人職員で構成された「THE DORAB
ANDS」 ギターやサックスを演奏し、懐メロやクリス
マスソングをお届けしました♪

お正月は巨大すごろく作り
何人もの参加で楽しんでいます！



お正月には巨大すごろくを作り、ほぼ全員参加で白熱の展
開に！！
着物を着た可愛いお客様が、とっても場を和ませてくれま
した。



お正月は巨大すごろく作り
何人もの参加で楽しんでいます！



お正月は巨大すごろく作り
何人もの参加で楽しんでいます！



節分の日には、豆まき用の豆作り。「手の運動になるで
な」と新聞をまるめて作っていただきました。■■そして
この鬼のお面見て下さい！とてもリアルでしょう？ これ
は入居者の「O様」が描いてくださったものです。



〇様は定年後水墨画を始められ、京都の教室まで十数年通われたそうです。その後は自宅近くの公民館で講師も務められ、趣味の域を超えて水墨画に向き合ってこられました。

つみなみに入居後も公民館の館長さんから依頼を受け、月に1度、指導に行かれています。

地域とのつながり①



これがその様子です。生徒さんのある方は「〇さんが施設に入所したと聞いて、もう教えて貰えないのか・・・と寂しく思っていた。〇さんはこの地区の長老やでな！こうやって元気な姿を見せてもらえると私も元気に頑張らなあかな～って思うんです」と話してくださいました。この様に入居後も地域の中での存在感は変わらず、ご本人の居場所があり「繋がっている」事はとても素敵で、またとても重要な事と感じました。

地域とのつながり②



こちらはつみなみが所在する、「高茶屋中山地区」自治会のみなさまとの交流の様子です。集会所にて月1回開催される「生き生きサロン」。身体や脳を使うゲーム、津市社会福祉協議会の方を迎えての講習会など、さまざまな楽しい催しがありつみなみの方も自治会員として可能な限り参加しています。懐かしい友人とばったり再会する事もあり、それを機に交友関係を続けていってほしいです。自宅からつみなみへと住処が替わっても馴染みのある地で生活を続けていく事で縁が途切れる事なく続いていくのは素晴らしい事だと思います。

お邪魔するだけではなく、つみなみにお越し頂く事もあります！コーヒーを飲んでお菓子を食べながら、カラオケのデュエットを楽しむ……。いい時間です。

自立支援 自分らしい生活



そしてもうひとつ 私たち職員が大切にしているのは「自立支援 自分らしい生活」です。掃除・洗濯・買い物など、長年ご自分でされてきた事を全て私たち職員がするのは簡単です。でもまだまだ皆さん出来る事が沢山あり、「自分でできる事はしたい」と思っておられるのです。

「これくらいはせなな！出来る事はするに！」とおっしゃり、決して「お手伝い」ではなく「自分の事は自分です」という感覚でいらっします。そして「まだまだできる」という自信にも繋がっています。■写真の男性、自宅では洗濯物をたたんだ事はないそうですが、つみなみでは率先してたたんでくださいます。前の席の奥様もビックリです。

地域の中で自分らしく



時には徒歩5分のところにあるオークワまで出掛けます。昔作ったおかずのレシピなどを思い出して話をしながら買い物をするその顔は正に主婦の顔です。セルフレジの体験はとても貴重だったようです！

これからも・・・



お散歩中やオークワでの買い物の際に「つみなみの豊壽園さん！」と声をかけて頂けるよう、お困りの際には「豊壽園さん、相談にのってもらえる？」と気軽にお越しいただけるよう、また災害時にも地域の方々と互いが助け合えるよう、地域の中の「つみなみシルバーケア豊壽園」として今後も深く関わりをもっていきたいと思います。

そして、つみなみの入居者の皆様がつみなみを居心地の良い我が家と感じて頂けるようこれからもお気持ちに寄り添っていききたいと思います。

ご清聴ありがとうございました

地域との関わりをととして

志摩地区地域密着型ケアセンター



地域との関わりをととして

志摩地区地域密着型ケアセンター

志摩地区地域密着型ケアセンターの場所



志摩市は現在5万1千人が生活をしています。志摩市の高齢化率は約37%と非常に高い市となっています。

それぞれ阿児町は31%ですが、大王町45.2%浜島町44.5%とほぼ半数が高齢者という地域です。平成37年には高齢化率が42%達する見込みとなっています。

浜島地域密着型ケアセンター

- ・地域との交流 「外に出よう」「園に来てもらおう」



浜島地域密着型ケアセンターです
地域との交流について「外に出よう」「園に来てもらおう」というコンセプトで基本ですが言葉に出すことで意識し行動につなげています。

地域行事に参加

地域の行事には積極的に参加しております。

みなさまが地域の一部として、以前とお変わりなく楽しめるようにお祭り、文化祭などに参加しております。

地域行事に参加(外に出よう)

- ・ササエビ祭り
 - ・いきいきサロン
 - ・浜島神社
 - ・津之宮大祭
 - ・トライアスロン三つ葉橋
 - ・スウェーデン
- 津波の経験として、災害と
かわりなく楽しみ、楽しむ



その中でも、ご近所の障害学習センターでの「いきいきサロン」には必ず参加するように心掛けております。(写真右真ん中) いきいきサロン・体操教室、講習会、お楽しみ会(手品、おしゃべり)など

次に「園に来てもらおう」ですが

ご近所づきあい(園に来てもらおう)

- ・南張秋祭り(毎年10月開催)
- ・ご近所への散歩や訪問、園へのボランティア活動
- ・朝市(買い物)、おじいちゃん・おばあちゃん

それぞれの病状があっても、普段と園にお付き合いができる



園では10月に南張秋祭りを開催し、地域の方々たくさんの人と交流を行っております。

日常でも以前よりお付き合いのある方々がたくさん訪ねてみえます。また、こちらからも

お散歩でお庭を拝見させていただいたり近所づきあいを大切にしております。

津波救命艇

- ・見学を通じて園児や外部の方と交流
- ・避難訓練を通じてご近所の方と連携



津波救命艇もまたご近所の方、外部の方との交流に活用しております。社会見学の幼児たち、また外部の社会見学を招いて交流を行っています。防災避難訓練の際にはご近所様の協力をいただいております

阿児地域密着型ケアセンター 岡田画伯ミュージアム

・絵画作品29点 展示



阿児地域密着型ケアセンターです。

岡田久春ミュージアム

岡田久春ミュージアムは、平成28年11月に開設されました。

岡田画伯は四日市市で生まれ三重大学で美術を専攻されたのち、三重県立高等学校の教諭や校長を務める傍ら松阪市を拠点に制作を続けられていました。29点の作品をご寄贈いただき、フロアーや各居室に展示をしております。

地域のボランティア

・子供たちからシニアグループまで来園頂いています



地域のボランティア

毎月定期的にボランティアの方々が来園して、踊りや歌を披露して頂いています。ボランティアの年齢層は幅広く来て頂いています。

大王地域密着型ケアセンター 志摩市民病院

・人工透析患者のご利用者様
を行っています



・志摩市国民健康保険
市民会館を開設



最後に大王地域密着型ケアセンターです。

大王地域密着型ケアセンターから車で数分の所に志摩市民HP.があります。

ご利用者様の中に人工透析を行っておられる方がおられ、その送迎の対応を行っています。

また、2年前よりより志摩市民HP.を知ってもらおうと病院祭りを開催されており、かかりつけのご利用者様を中心に、参加させて頂いています。

開業医との関係

・シンガーソングライター



開業医との関係

町内にシンガーソングライターとしてCDデビューもされているあがわ医院があり、緊急時や看取りなどで非常にお世話になっています。

また、あがわ医院作詞作曲のそれであわせを使ったボレボレ体操を毎日午後の体操に取り入れご利用者様と一緒に体を動かしています。

また毎年9月に行われているわらじ祭りのステージに今年度はあがわ医院と職員有志で出演をしました。

植栽

・事業所前道路



・事業所花壇



植栽

事業所前道路は草が生え、非常に見通しが悪い為、職員できれいにしました。そこへ近所の方が花を植えられて、現在このようになっています。
花壇も草ばかりでしたが、ご利用者様やご家族様のご協力も頂き、現在ではこのようになっています。

清掃活動

- ・2月汗かき地蔵祭り
- ・9月わらじ祭りという地域の祭りがあり、毎年2回の清掃活動への参加を行っています



清掃活動

2月に汗かき地蔵、9月にわらじ祭りがあり、その前に地域の方と一緒に清掃活動へ参加を毎年行っています

ご静聴ありがとうございました



このような地域との交流が増加することにより、たくさんの方より気軽にお声をかけて頂くようになりました。そして近所の方よりの相談、情報もたくさん伺うことができた実感しております。これからも親しみのある関係づくりを心掛けて取り組みたいです。





今回は気軽に立ち寄れる窓口になるために私たちの日々の取り組みを発表したいと思います。



「つまちなか地域総合相談センターとは」
つまちなか地域総合相談センターとは平成27年11月、津にある商業施設、津センターパレス内に健康・介護・子育て・障がい者支援・福祉用具などすべての世代の方が相談できるくらしの相談窓口として開設しました。在宅介護支援センターは平成28年4月、市役所に代わる公的な相談窓口として開設。津市内には12の在宅介護支援センターがあり、その1つです。



「活動内容」
総合相談センターは先ほど紹介したくらしの相談のほかに、血圧測定や体組成測定を行い健康づくりのアドバイスを行っています。また福祉用具展示・販売は一般の方も多く来られるので、介護保険外の靴や杖などをメインに取り扱いをしており適切な選び方や紹介などを行っています。在宅介護支援センターでは介護や福祉の相談のほか、月1回の健康教室を開催したり、地域の自治会や老人会に出向いて講座を行うこともあります。



「つまちなか地域総合相談センター来園者数」
窓口が開設したH27年11月から先月までの来園者数の比較になります。相談以外に来園される方もおり、バスや周辺の案内などを行う事もあります。



相談件数と年齢構成になります。今年度の相談件数は2861件。総合相談の内容は血圧や体組成測定からの相談となります。年齢構成は名前や住所など窓口で顧客を管理している方が約530名おり平均年齢は75.1歳。全体的な相談の印象はまだまだ元気な方が多く緊急な相談よりは今後の不安や介護が必要になった時はどうしたらいいの？といったものがほとんどです。



今回のテーマは活動内容のひとつ（クリック）福祉用具の展示・販売から窓口のあり方を考えていきたいと思います。



これは、開設当時の商品棚の様子です。棚は白色で靴をメインに展示しています。一番左の棚は上から下まで全て利用し、食器も並べています。全体的にシンプルな展示となっています。



開設した月は、多くの方に来ていただき、展示の反応も良かったのですが、良い状態を維持することの難しさに気付きました。たくさんの方に興味を持ってもらうにはどのようなレイアウトにすれば良いか、職員で話し合いました。実際の取り組みがこちらです。

変更点その①
高級感漂う特別な空間



平成28年6月に棚の入れ替えが行われ、見て分かるように棚の色が変わりました。
窓口の壁と同じ木目調でシックに統一し、高級感のある空間になりました。
また、展示する商品もおしゃれな物を追加しています。

変更点その②
見やすい・わかりやすい



まずは、手書きポップに力を入れ、使用感やお客様が知りたいことを記入しました。具体的には、新商品や人気商品を分かるようにしたり、靴だと雨の日でも履けることや疲れにくいなど特徴を書くことで分かりやすくPRしています。
次に、使用感が試せる工夫です。こちらの写真は、セラバンドとゴム式の体操グッズです。実際に手に取ってみないと使用感が分からないので、販売品と同じものを試せるように展示しています。
食器についても、触れるように展示をすることで便利さを感じていただきやすくなりました。
また、商品がちょうど目線の高さにくるように、一番上の棚の高さを低くしました。
人が展示物を見やすい・手に取りやすい高さは目から胸の高さまでと言われています。
来園者の平均年齢は75歳。75歳の平均身長は男性163cm、女性150cmです。棚の高さを140cmから113cmへ下げることによって、見やすく、手に取りやすくしました。

変更点その③～季節感を大切に～



わくわくして窓口に入りたくなる展示を目指し、季節感を大切にしています。
季節のお花や置物を置いて演出しています。商品も、サンダルや温かい靴下など、季節に合わせた展示を心がけています。

変更点その④
洗心福祉会の案内コーナー



棚の一番奥には、法人のPRとして、案内コーナーを作りました。
洗心福祉会の案内（今は3/25高茶屋でおこなわれる洗心カフェを案内しています）また、伊賀焼、保育園の案内など各事業所の情報を発信しています。



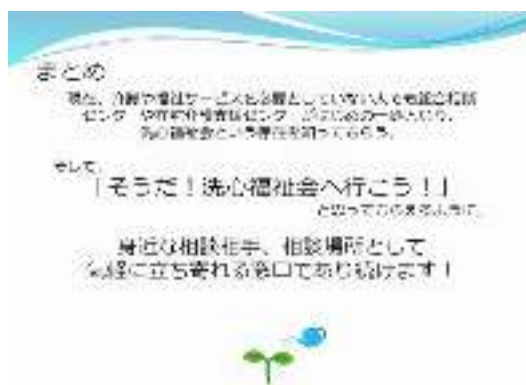
・・・はこちら！
履きやすくおしゃれで色のバリエーションが豊富な物が人気です。
専務にご購入いただいたこちらのパンプスも今からの季節オススメです。



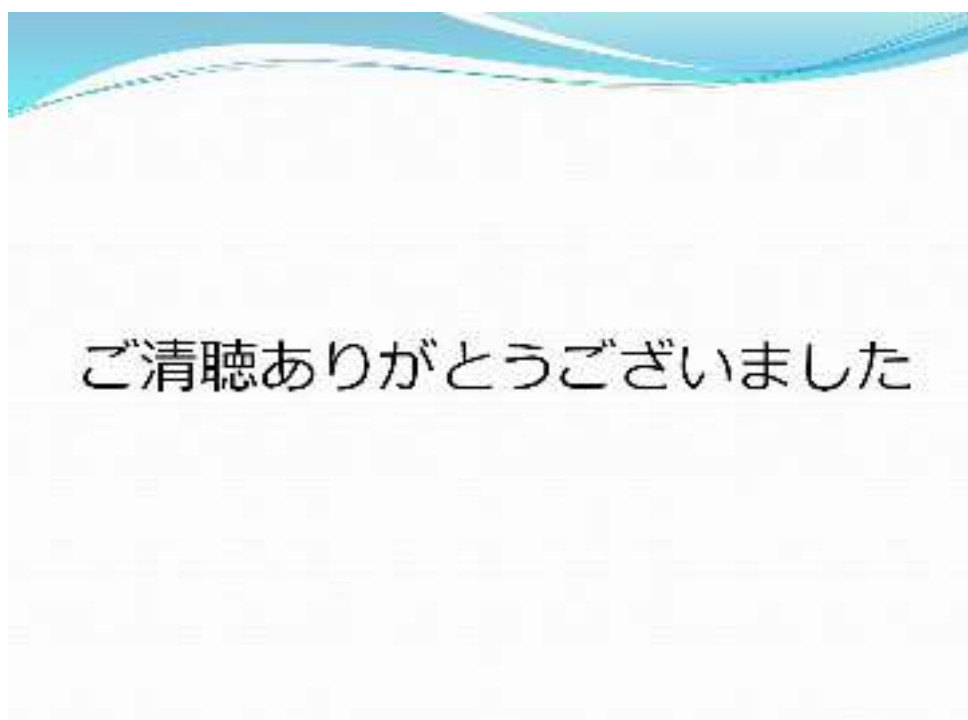
実際に購入をした靴を履いて、在宅介護支援センター主催の健康教室に履いてきてくださる方がたくさんいらっしゃいます。「色違いね」と、参加者同士のコミュニケーションの一つとなっていることは嬉しさの一つです。
これは杖用のストッパーですが、購入した物をアレンジして見せに来てくださいました。
購入後も繋がりができ、「また何かあったらお願いします」とお声掛けいただくことは窓口ならではの喜びであり、こういった積み重ねが大切だと感じています。



Aさんの事例を紹介したいと思います。開設当時に靴の購入をきっかけに在宅介護支援センターが開催している健康教室へ参加して下さいました。そこでご主人の介護相談をお受けし、現在白塚のデイサービスと歩行器レンタルの利用をされています。



今、相談に見える方は元気な方が多いためすぐにサービスにつながる事は少なく種をまいているのが現状です。しかし、高齢化が進むなか、不安を抱えて生活をしている方が多くいると実感しています。今は介護や福祉サービスを必要としていなくても総合相談センターや在宅介護支援センターがはじめの一歩となり洗心福祉会と言う存在を知ってもらいたい。そして何か困ったことや不安な事、話を聞いて欲しいと思ったときに「そうだ！洗福祉会に行こう！」と思ってもらえるような抛り所になれるよう、また身近な相談相手・相談場所として気軽に立ち寄れる窓口であり続けられるよう今後も対応していきます。



障がい事業部 奮闘記

～お伊勢さん菓子博への出店～

伊賀地区障害事業部

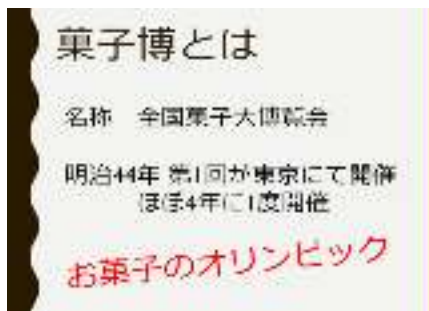
須川 大軌 大井 彩





障がい事業部内にあります工房楽々あやま・きらめき工房いが・きらめき工房あやま合同での取り組みです。

3事業所ともに就労支援B型・生活介護事業を展開、ご利用者様と一緒にパン作りや陶芸を中心に行っています。

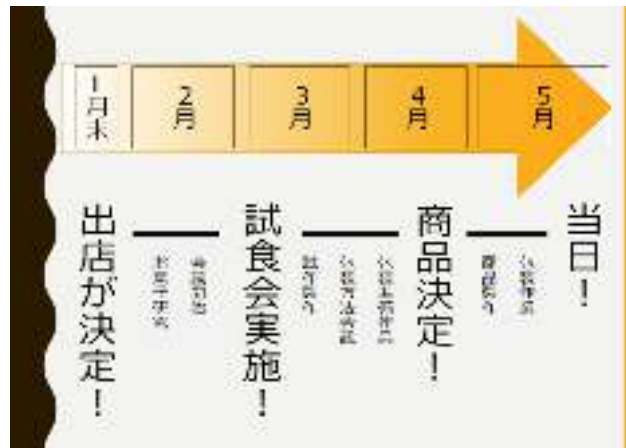


菓子博というのは、正式名称は「全国菓子大博覧会」、およそ107年の歴史あるイベントです。ほぼ4年に1度の開催で「お菓子のオリンピック」ともいわれています。

その菓子博が今回は三重県へ。伊勢市にあります県営サンアリーナで24日間行われました。わたしたちは昨年、全国的にも大きなイベントである「菓子博」に参加させていただきました。



今回の出店は「共同受注窓口みえ」というNPO法人からの募集がきっかけでした。「共同受注窓口みえ」は、障がいのある方の自立生活を目指し、事業所等で働く方々の工賃を上げるため、就労支援事業所の受注を拡大しようと共同的な取り組みをしています。菓子博には立候補した8事業所が合同で出店することとなりました。



出店が決定したのは1月末。出品する商品のラインナップ考案のため、研究・会議を行いました。2月末には、試食会を実施。

試食会の様子がこちらです。15種類のお菓子から検討しました。



また同時進行で包装方法など検討、さらに試作に試作を重ねて、4月商品が決定しました。

完成した商品がこちらです。クッキー・ラスクあわせて8種類のお菓子を出品しました。原材料には地元の特産品を使用したこだわりのお菓子です。

イメージキャラクターの「いせわんこ」の陶芸品も4種類出品しました。



そして当日です。天気はなんと大雨、さらに風も強くてまるで嵐のようでした。持参した雨具がすぐに壊れてしまうアクシデント。ですがその際、ふたみシルバーケア豊寿園からカップやタオルをお借りすることができました。また大量の商品や備品を施設内に置かせていただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。



そんな一日目でしたが、突然、中日新聞より取材をしたいと記者の方が来られました。そして翌日・・・



新聞には工房楽々あやま中山支援員&陶芸いせわんこの写真が「でかでか」と掲載されていたのです。



そして二日目。新聞の反響もあり、隣に出店していた某大手パンメーカーを置いて、大盛況でした。



売り上げはなんと1日目が11万2600円、2日目が16万9950円、あわせて27万3550円という結果に。また16万9950円という一日の売り上げは、出店した8事業所内において最高額でした。

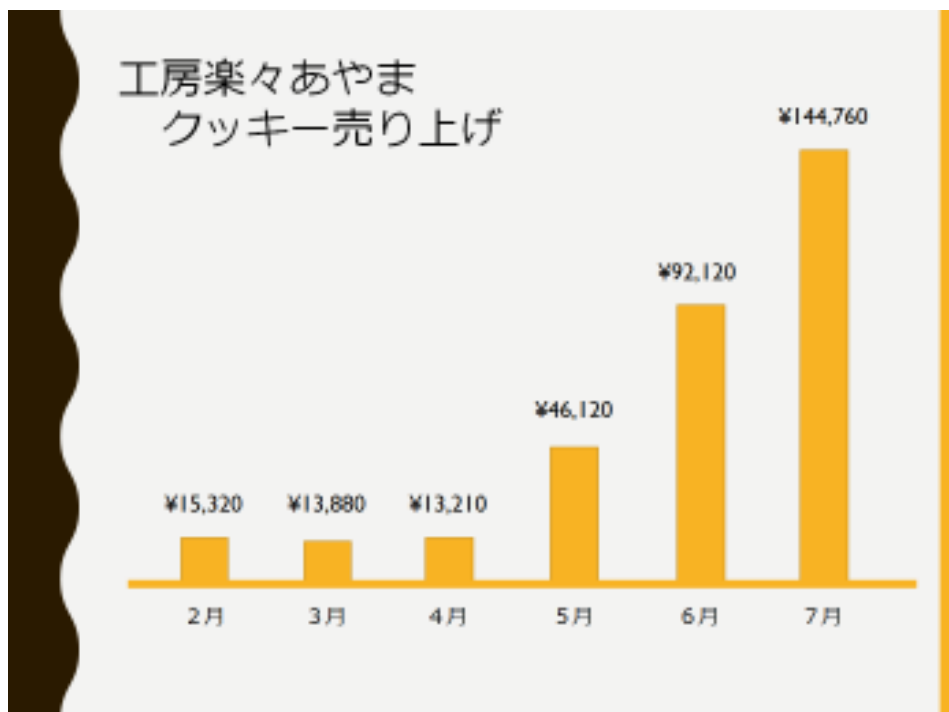


そんな当日までの道のりは長く、新商品開発のためお菓子の本を集めて研究、時にはお菓子そのものを購入して原材料のラベルなどから情報を得ることもありました。また作ったクッキー約一万枚、予備などいれるとそれ以上。
機械であわ立てる他の事業所に対し、私たちはすべて手作業にこだわりました。そしてほとんど通常業務と平行して作業を行いました。



良かった点としては、新商品が出来たこと、注文・売り上げが増えたこと、それによって授産収入の向上につながったこと、たくさんのクッキーを製作して異物混入等クレームが1つもなかったこと。

これらはご利用者様を含めた私たち障がい事業部のやりがいとなり、自信へとつながりました。



実際に工房楽々あやまのクッキーの売り上げを表にしてみました。喫茶での売り上げがメインだったのが、5月以降は注文も増え、イベントなどにも積極的にのって頂けるようになり、反響は大きく感じています。



そして何より3事業所が協力して1つのことを成し遂げたことが、この菓子博で得た一番のプラスです。「連携をする」ということで大きな力となり、それぞれの特徴・強みを生かすことが出来ました。

待ちの姿勢でなく、自分たちで考え自分たちで切り開いていく。そんな想いを胸に、業務に励み、支援に繋げていきたいと思います。

最後になりますが、お菓子博に出品したクッキーを本日お持ちしました。是非休憩時間などに食べていただければと思います。



菓子博出店は、今までにない初めての挑戦でした。自分たちに何が出来るのか、どこまでやれるのか。初めての大きなイベントに、ご利用者様にも職員にも、やりがいを感じて欲しいと全員一丸となって取り組みました。



その結果、ご利用者様のモチベーションは上がり、職員全体では、更なる授産収入の向上、そしてサービスの質の向上を目指していきたいという意識を再確認することが出来ました。



菓子博での
取り組み全てが
これからへと
繋がっていきます

待ちの姿勢でなく、自分たちで考え自分たちで切り開いていく。そんな想いを胸に、業務に励み、支援に繋がっていきたいと思います。
最後になりますが、お菓子博に出品したクッキーを本日お持ちしました。是非休憩時間などに食べていただければと思います。

お わ り に



ご清聴ありがとうございました♪

人と人の繋がりが生み出す 未来



保育事業部 はなこま保育園



人と人との繋がりが生み出す 未来



保育事業部 はなこま保育園

はなこま保育園はH12年、豊野保育園はなこま分園として開設。H18年に60名定員の保育園になり、家庭的な雰囲気の中、異年齢児との関わりや高齢者との交流を深めています。特に兄弟のように育つ園の温かさ、雰囲気が保護者にとっても、魅力の一つとなっているようです。地域では元気いっぱい遊ぶなら某保育園、しつけをしてもらうならはなこま保育園、と言われるくらい選ばれる園となりました。

はなこま保育園沿革

- ・平成12年 豊野保育園はなこま分園開設（28名定員）
- ・平成18年4月1日 はなこま保育園（60名定員）として開園
- ・現在70名定員(在籍数83名)



現在70名定員、82名のお子さまをお預かりしています。津市南部の待機児童の解消のため、H22年には120名定員の第二はなこま保育園が開設し、その後H27年に増設して180名定員となりました。同じ理念・方針・目標に向かって保育をしています、個々の園として見ると、はなこま保育園の良さが見えにくくなりました。

はなこま保育園の特色

- ・家庭的な雰囲気である
- ・異年齢児との関わりが深い
- ・第二はなこま保育園と一体的な保育をしている
- ・高齢者との交流が自然に育まれている
- ・医療（高茶屋クリニック）が整っている

はなこま保育園ならではの
特色を引き出すためには？

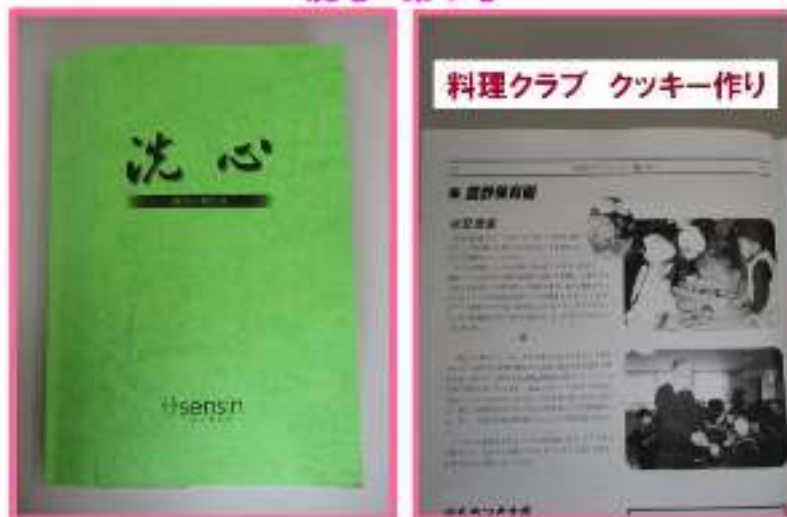
このよさをもっと引き出し、はなこま保育園ならではの特色にしたいと考えた時、洗心福祉会の原点である豊野保育園に辿りつきました。職員が一丸となって努力し、いろいろな活動を取り入れた、そのなかの一つがクラブ活動であり、子どもたちがやる気を持って取り組み、保護者に受け入れられ、定着し、活発化していったとのことです。

洗心福祉会の
原点に立ち返って…

豊野保育園が培ってきた精神を受け継ぎ、はなこま保育園としての新たな取り組み、クラブ活動を今年6月からスタートさせました。

豊野保育園のクラブ活動

洗心 第1号



平成29年6月 クラブ活動スタート

クラブの目的

- ・異年齢児の関わり → 社会性
協調性
思いやりの気持ち
- ・みんなで力を合わせて最後まで
一生懸命がんばる

異年齢の友だちとの関わりを通して、社会性、協調性や思いやりの気持ち、みんなで力を合わせて最後まで一生懸命頑張ることを目的にしています。

また日頃の成果を発表する場を設け、その目標に向かって子どもたちが気持ちを高めていけるようにしました。

クラブの紹介



クラブは体育クラブ、音楽クラブ、製作クラブの3つです。

内容をご覧のとおりです。

・体育クラブ：マット、平均台、フラフープを使って運動します。

・音楽クラブ：歌、リトミック、楽器演奏をします。

・製作クラブ：創造性を活かしながら共同製作をします。

各クラブは担当する保育士が目的に沿って年間計画を一緒に立て、月2回実施することを決め、その都度デイリーを作成し、計画的に進めてきました。

「こどもと一緒に楽しもう！」と担当保育士同士、励まし合い、協力し合ってきました。

- ・異年齢児(3～5歳児対象)のグループ
- ・グループの人数は15名程度
- ・各担当は3～5歳児の担任
- ・月2回実施

年間計画・日案(デイリー)



取り組みの様子はわくわく新聞でタイムリーに保護者に
掲示しました。発信することによって、活動がより伝わ
りやすくなり、保護者から連絡帳への記載など関心も高
まってきました。



一年間の取り組み

＜子どもから子どもへ＞

クラブが始まった当初は緊張気味の子どもたちでした。
回を重ねた年度半ば頃には、年長児は自発的に年少児に
声をかけ、率先して保育士の手伝いをしてくれました。

そして年少児は「大きい子たちがいるから大丈夫」と
信頼し、子どもたちは自分たちの力でつながっていきま
した。

一年間のクラブ活動を通して、子どもたちが培ってきた
ものは

- ・年上として思いやりを、年下の子どもが憧れの気持ち
を持ったこと。

⇒異年齢の信頼関係が築かれ、つながること

- ・達成感が自信・意欲を生み出したこと

- ・自発的な行動に変わってきたことです。

体育クラブ



・体育クラブ
運動遊具を使ったり、しっぽ取りなどの集団遊びをしています。

「お願いします！」挨拶、礼儀やきびきびとした行動を重んじています。



運動会



運動会にその姿を披露しました。

音楽クラブ



- ・音楽クラブ
保育事業部には年齢別の歌のカリキュラムがありますが、それ以外の歌を取り入れ楽器を楽しみます。

発表会



また初めてハンドベルにも挑戦しました。みんなで協力することによって曲となる、クラブならではの取り組みです。上手になってくると、こどもたちから「誕生会に発表しよう!」と提案があり、自信につながりました。



誕生会で披露

製作クラブ



- ・製作クラブ
画用紙や絵の具などいろいろな素材を使って共同製作します。みんなで力を合わせて、一つのものを作る喜びを味わっています。



運動会



運動会ではこつこつと作り上げてきたおみこしを担いで披露しました。「わっしょい！わっしょい！」観客の掛け声もあり会場が一体となりました。





節分にちなんだ鬼の的当てを作ると「友だち呼んであげよう！」という誘いの声が。それぞれの係につく姿が見られ、自分から行動する力がついてきました。
またできあがった作品はその都度玄関に展示し、みてもらいました。



保護者・地域への発信



<保護者への発信>

取り組みの様子はわくわく新聞でタイムリーに保護者に掲示しました。発信することによって、活動がより伝わりやすくなり、保護者から連絡帳への記載など関心も高まってきました。

子どもから子どもへ ～ところをつむぐ～



<子どもから子どもへ>

クラブが始まった当初は緊張気味の子もたちでした。回を重ねた年度半ば頃には、年長児は自発的に年少児に声をかけ、率先して保育士の手伝いをしてくれました。そして年少児は「大きい子たちがいるから大丈夫」と信頼し、子どもたちは自分たちの力でつながっていきました。





一年間のクラブ活動を通して、子どもたちが培ってきたものは

- ・年上として思いやりを、年下の子どもが憧れの気持ちを持ったこと。

⇒異年齢の信頼関係が築かれ、つながること

- ・達成感が自信・意欲を生み出したこと

- ・自発的な行動に変わってきたことです。

一年間のクラブ活動を通して

◇異年齢の信頼関係が築かれた

◇達成感→自信・意欲を生み出した

◇受動的→自発的な行動へ

◇クラブ活動が定着

クラブだけにとどまらず、枠を越えてみんなで楽しさを共有したいという思いが子どもたちからあふれてきています。



クラブ活動を活かした 今後の取り組み

- ◇日々の生活の中にグループでの活動を取り入れていく
- ◇高齢者とのふれ合いの場を広げる
- ◇ホームページやブログでの発信をしていく

保育士、子ども、地域の
人と人とのつながりを築き
共に育ち合うことを目指します！



つながりが生み出す未来

＜つながりが生み出す未来＞

クラブ活動から波及し、つながりが生まれていく様子を実感し保育士としてやりがいを感じています。今年度の活動を土台に、これからはクラブ以外の時間でもグループとして活動する場を設け、それぞれのクラブの特性を活かした乳児との関わり・高齢者との触れ合いを持ちたいと考えています。またホームページやブログに活動を載せ、はなこま保育園からつながりを広げていきたいです。

保育士、子ども、地域の人と人との
つながりを築き、共に育ち合うこと
を目指します。

伊勢・志摩サミットから繋がる心

しまの杜保育園

田中 友実 中村 歩 濱地 千佐





しまの杜保育園



- ・高松市で初めての民間の保育園として、平成23年4月に開園し、設立より7年目を迎えました。
- ・定員は80名です。
- ・子育て支援センターわくわくの森も隣接しています。

・所在地は志摩市阿児町神明で伊勢志摩サミット開催場所の数メートルのところにあります。

洗心福祉会保育事業部は7つの保育園としまの杜神明幼稚園があります。しまの杜保育園は志摩市で初めての民間の保育園として、平成23年4月に開園し、設立より7年目を迎えました。定員は80名です。子育て支援センターわくわくの森も隣接しています。所在地は、志摩市阿児町神明で伊勢志摩サミットが開催された場所の数メートルのところにあります。

保育事業部

理念
「心身ともに健康で安全に過ごせる環境作り、子どもたちに夢と希望を育む保育を目指します。」

目標

- ① 心身ともに健康で安全に過ごせる環境作り
- ② 子どもたちに夢と希望を育む保育

丁寧にかかわり、あきらめない心で成し遂げた夢と希望の奇跡

保育事業部の理念は、「心身ともに健康で安全に過ごせる環境の下、子供たちに夢と希望を育む保育を目指す」です。目標は「おもしろいのある子ども、最後まで一生懸命頑張る子ども」です。目標に向かいどうしていけばいいのか？ ころや物事に丁寧にいかかわるように、あきらめない心と行動を心掛けました。そして、成し遂げた夢と希望の奇跡をご紹介します。

・でも環境は違うー
・未だ中も温かい子もいるしとないで済ま
職員の間でも色々な意見もありました。

この経験があった子どもたちの心を豊かにし、夢と希望を育んでくれる
【チャンス】
あきらめずに子どもたちに丁寧にいかかわり気持ちを込めて、お手紙をつくることにしました。

子どもたちからのメッセージが届きますようにー

最初の奇跡は、第42回先進国首脳会議が、三重県志摩市阿児町神明賢島での開催決定したことです。法人としてどのような取り組みがあったか 皆様ご存知でした法人として伊勢志摩サミット開催にあたり、プロジェクトチームを発足し、洗心サミと名付け、沢山ある事業の中でいろいろな意見、取り組みを検討していきました。その中でサミット開催土地にある保育園としてできることは、子どもたちの喜びこととを考え、サミット各国首脳に保育園に来てほしい。国際交流をしたいという思いで、志摩地区2つの保育園と幼稚園が1つになり、取り組み各国大使館へお手紙を送るしました。

法人も洗心福祉会として伊勢志摩サミット開催にあたり
プロジェクトチームの地域・洗心サミットには関係する
園長の4人で何度も話し、意見交換を繰り返した。

サミット開催土地にある保育園としてできることは
子どもたちの夢を育てる

サミット開催地に保育園に来てほしい
園長も夢を育てたい

しまの杜保育園・しまの杜幼稚園と一歩前進しました。

お手紙を書いて各国大使館へ送ろう。

職員の間でも色々な意見もありましたが、この経験がきっと子どもたちの心を豊にし、夢と希望を育んでくれるチャンスだと思いあきらめずに子供たちに丁寧にいかかわり気持ちを込めて、手紙を作ることにしました。子どもたちからのメッセージがとどきますように、職員の間でも色々な意見もありましたが、この経験がきっと子どもたちの心を豊にし、夢と希望を育んでくれるチャンスだと思いあきらめずに子供たちに丁寧にいかかわり気持ちを込めて、手紙を作ることにしました。

子どもたちからのメッセージがとどきますように、



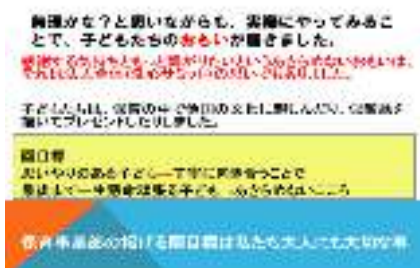
どのような手紙を作るか、しまの杜子どもセンターと協力し、一緒に考えました。
志摩市をイメージできるものでインパクトのある手紙を子どもたちの思いを届ける
賢島特産の真珠の養殖に使用するあこや貝の形に国旗を取り入れた手紙です。
この手紙はサミット1ヵ月前頃に各国大使館に送りました。



2つ目の奇跡はサミット開催3日前、保育園のポストに外国表記の封筒が届き、手紙
プレゼントが入っていました。 ドイツからの手紙でした。
ドイツの民族衣装を着たキティちゃんのマグネットと、皆さんこのドイツのキャラク
ご存知ですか？ドイツでは日本でドラえもんくらい人気のあるDマウスのステッカー



手紙の返事が届いた経緯として、三重県という土地に繋がりがありません。三重大学
留学経験があったカロリンさんが担当をしてくださっていたからです。
子どもたちもまさかのプレゼントに大喜びでした。



無理かなと思いつつも実際にやってみることで、子どもたちの思いが届きました
感謝する気持ちとずっと繋がりたいというあきらめない思い、それは、法人全体の思
がありました。
子どもたちは、保育の中で他国の文化に親しんだり、似顔絵を描いてプレゼントし
しました。



そしてついに伊勢志摩ワミットが開催されました。各国自国旗の制作を通して、ドイツのキャラクター「Dマウス」を持ち、手作りの国旗を持って国賓館にて旗振りです。全国のお巡りさんとの交流も喜び、子どもたちの一生の思い出となりました。



その後も洗心サミット全体で協力、力を合わせて、交流を図りました。副理事長とカロリンさんにお会いする機会があり、ドイツ大使館に訪問しました。その後、カさんが、ドイツに帰られる前にしまの杜保育園に来てくださいました。その後も大使にお会いする機会を作ってくださいましたので、子どもたちが似顔絵のプレゼントを作理事長、又 陶芸作品を作成をされた鈴木さんも同行され、大使館へ2度目の訪問をいただきました。



丁寧な関わりを重ねたことにより、3つ目の奇跡が起こりました。ドイツ総領事館保育園を訪問してくださいました。子どもたちは、この日のためにかえるの歌、ぶんぶんぶん、子ぎつねのうたを練習プレゼントをしました。日本でもなじみのある歌ですが、原曲はドイツの民謡です。とても優しいご夫妻に会えて感動の一日となりました。

私たちしまの杜保育園は素晴らしい地域の環境とそれだけでなく、法人全体、保育もとで、指導して頂けたり、相談 協力できる環境のもとにあることを実感できまし



各事業所の役割分担をし、力を合わせ協力しあきらめずに夢を持って行動することができないと思ったことも子どもたちと一緒に経験することができました。人とかかわりを丁寧にする事で繋がっていくこと、それは、子どもたちや保護者同じことだと思います。大きな事業を通して、普段あたりまえにしている保育の大切さ素晴らしさに気づくことができました。いつも協力や交流をしていただく法人の皆様に感謝し、今後も繋がって基本の理念や目標を大切に保育していきたいと思っています。



ちなみにカロリンさんとの出会いから始まったこの国際交流・・・まだまだ終わりではありません。先日カロリンさんから園長に依頼がありました。

依頼内容はJETプログラムへの推薦状のお願いでした。○ JETプログラムとは、語学指導を行う外国招待事業で外国青年を招待し、地方で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業のことで、狭き門でができるわけでもないそうです。

カロリンさんがJETプログラムに参加できた折には国際交流の場を提供できるよう繋がっていききたいと思います。子どもたちは、今回の取り組みの中で、国旗を作ったカッコよかった。旗振りが楽しかった。外国の人が来てくれた。などの感想でしたがこの経験を大きくした時に思い出してもらい視野を広く持ち、世界に目を向けたり世界で活躍できる人になってほしいとおもいます。サミットから繋がった様々な経験は、子どもたちに夢と希望をもたらしてくれたと信

伝々祭がスタートライン

発表者：立松 美咲
山本 博道



伝々祭がスタートライン

発表者：立松 美咲
山本 博道

鈴鹿シルバーケア豊壽園 立松美咲 山本博道です。
よろしくお願いします。

私たちの発表は「伝々祭がスタートライン」です。

・伝々祭って何？

白塚シルバーケア豊壽園と
鈴鹿シルバーケア豊壽園が
開設して初めて企画した
秋祭りです。

みなさん、いきなりですが伝々祭をご存じでしょうか？

伝々祭とは、「絆を深めながら地域力を高め、ご縁を大切に、伝統ある地域のイベントとして伝えていく」という思いを込めて命名した白塚シルバーケア豊壽園、鈴鹿シルバーケア豊壽園が合同で企画していた秋祭りです。



初夏に合同委員会を立ち上げ、模擬店、設営、アトラクション等の分科会も順調に準備が進んでいました。全ての準備が終わり「さあ後は本番を待つばかり」という時に台風21号が10月22日に上陸しそうだとの予報が出され、安全を最優先した結果、中止という決断を下さなければならませんでした。

というわけで残念ながら第1回伝々祭は幻に終わってしまいましたが、気が付けば白塚と鈴鹿の間に連帯感のようなものが芽生えていました。そしてこれをきっかけによりスタートを切ることができました。これを秋祭りだけに留めず様々な事に波及させていこうというのが今回の取り組みです。

今年度は様々な事で
白塚・鈴鹿が手を組み
ました。



まず白塚・鈴鹿合同による年末懇親会を鈴鹿サーキットで開催した事で普段顔を合
わすことない職員同士、よい交流を図る事ができました。
そもそも連携とは、同じ目的で何かをしようとするものが、連絡を取り合ってそれ
を行う事です。

しかし白塚・鈴鹿の現状としては一番近い所にあるケアサービスセンターでありな
がら助け合いや交流を含む連携が出来ていませんでした。
違うケアサービスセンター、違う部署であったりすると、無関心になっているので
はないでしょうか？

知らず知らずのうちに気を使い、意見の交換など話す機会が少なくなっているの
ではないでしょうか？

他人事のように思っていないでしょうか？

祝 第1回 白塚・鈴鹿連携会議開催！

連携会議を通じ現状の把握をしたうえで

どのような連携を図れるのか？！！

会議の中で次長、施設長を筆頭にそれぞれのリーダー以上が各サービスの現状を報告し、今後どのような課題があり、解決に向けてどのようなアクションを起こさないといけないのかを話し合いました

・そもそも連携とは？

同じ目的で何事かをしようと
するものが、連絡を取り合っ
てそれを行う事である。

それをふまえて

今後、私たちの考える連携とは
白塚・鈴鹿（北勢地区）が盛り上げられるように、定期的に会議の開催等でお互いの情報を共有していく事であると考えました。

そもそも連携とは、同じ目的で何かをしようにするものが、連絡を取り合ってそれを行う事です。

しかし白塚・鈴鹿の現状としては一番近い所にあるケアサービスセンターでありながら助け合いや交流を含む連携が出来ていませんでした。

違うケアサービスセンター、違う部署であったりすると、無関心になっているのではないのでしょうか？

知らず知らずのうちに気を使い、意見の交換など話す機会が少なくなっているのではないのでしょうか？

他人事のように思っていないのでしょうか？

・私達の考える連携とは
白塚・鈴鹿（北勢地区）が盛
り上げられるように、定期的
に会議の開催等で互いの情
報を共有していく事である。

回数を重ねるうちに同じ目標に向かっていき、徐々に見えない壁がなくなっていったと実感しました。

違うケアサービスセンターであってもお互いが、他人事ではなく共に考える事ができ、ひとつにならなければならないと思いました。

そこでご利用者様が必要としているケアサービスセンターを作り上げる事を目指し勝手ながら私たちの考えの中で一つの案が浮かびました。決して決して決して白塚と鈴鹿を合併しようとか言いたいものではありません。津市と鈴鹿市に分かれていても同じ建物内にあるぐらいの気持ちでこころざしを一つにして働くことで

伝々祭を通じて見えない壁があることに気付かされました。

鈴鹿CBC ・居宅介護支援 ・訪問介護 ・通所介護 ・訪問看護 ・認知症対応 型介護介護	見えない壁	白塚CBC ・居宅介護支援 ・訪問介護 ・通所介護
--	-------	------------------------------------

伝々祭の会議で白塚シルバーケア豊壽園・鈴鹿白塚シルバーケア豊壽園の職員が話し合いをするなかで、最初の方は面識のない職員同士の為、気を使っていたり、自分の意見があるのに、遠慮してしまい、建設的な意見が言い合える関係ではなく、見えない壁がある事に気づかされました。

（注）二重県連携介護サービスセンター
（注）二重県連携介護サービスセンター

- ・介護サービスセンター
- ・訪問介護
- ・通所介護
- ・訪問看護
- ・認知症対応型介護
- ・認知症対応型介護
- ・認知症対応型介護
- ・認知症対応型介護
- ・認知症対応型介護
- ・認知症対応型介護

回数を重ねるうちに同じ目標に向かっていき、徐々に見えない壁がなくなっていったと実感しました。

違うケアサービスセンターであってもお互いが、他人事ではなく共に考える事ができ、ひとつにならなければならないと思いました。

そこでご利用者様が必要としているケアサービスセンターを作り上げる事を目指し勝手ながら私たちの考えの中で一つの案が浮かびました。決して決して決して白塚と鈴鹿を合併しようとか言いたいものではありません。津市と鈴鹿市に分かれていても同じ建物内にあるぐらいの気持ちでこころざしを一つにして働くことで

ご利用者様・ご家族様のニーズに応え、より上質なサービスの提供ができる！

よりご利用者様・ご家族様のニーズに応え、上質なサービスが提供でき、結果として皆様に喜んで頂ける、利用したいと思える、安心を与えられるサービスを提供できればいいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。



清潔な環境で暮らしてほしい ・・・多職種連携での支援・・・

ふたみ居宅介護支援センター

鈴木 尚浩

横山 健二





清潔な環境で暮らして欲しい

・・・多職種連携での支援

ふたみ居宅介護支援センター

岡山県
倉敷市

岡山
郵便

A様 女性 86歳

お一人暮らし。猫が好き。子供はおらず、支援はお孫さん。

1年ほど前から、法人デイケアを週3回利用していました。

そのデイケアから、

「迎えに行くと、準備が終わるまで15分ぐらいかかる」

「準備が全く出来ていない。どの服を着てもらったよいか

わからない」「（その間待たされている）他のご利用者からも不満が出ている」「利用して頂けるのはありがたい事なので、何かよい方法を見つけて欲しい」



「何より、あまり良い環境で生活していないことが一番心配です。なんとかしてあげたいです」との相談あり。

なぜ、そんな事になっているかというと、

更に・・・

実は・・・

自宅の中も外も、ごみの山でいっぱい。

きれいな衣類がどこにあるのか、すぐにはわからない。

さらに・・・

先程お話に出ていた猫は実は野良猫。増えに増えたのです。

ものすごくよく言うと、とっても自由に過ごしているのです。自宅内には猫の糞尿も床にあふ
本人もその事をあまり気にしていません。食卓にある 本人の食事を、猫が食べてしまう事もありました。

自宅が意外と大きく、近所の家と隣接していないため、



デイケアの準備も大事ですが、まず、生活環境を整える

必要を感じました。

そこで、ご家族に相談しました。

お孫さんは、実は介護の仕事をしている方なのですが・・・

あまり、危機感がない様子です。



ほとんど、困り果ててしまいました。



一人で解決出来ない事なので、他のケアマネジャーにも

話をし、会議の場で相談・検討です。

「ヘルパーの利用は？」

「家族にどこまで関わってもらったら？」

「本人があまり困っていないのに、どこまで介入出来る」

さまざまな意見が出てきているうちに、内容が整理されていきます。



「ショートステイ利用という選択肢はどうだろう。慣れてもらえれば入所への道も開けるのでは」

このまま放っておけば、衛生的にもよくないし、大きな病気にもなってしまいます。業者に頼んで、一度自宅を片づけたこともありましたが、すぐに元のごみ屋敷に戻ってしまいました。



ショートステイの利用に関しては、ようやく本人の了承は得て、ご家族と面談。ただ、ご家族は「おばあちゃんはずっかりしているので大丈夫」と介護サービスの追加利用は断りました。

また、訪問介護の利用も熱心に勧めたのですが、話は平行線です。何度も、ご家族に説得を重ね、ふたみ老健での、2階：一般棟ショートステイ利用がようやく調整出来ました。



相談員が面談に訪問。自宅の環境を真のあたりにして、とても驚きました。

「これは何とかしなければ」と相談員も感じてくれました。

この思いが、その後の支援につながっていくのです。

そして、この間も、デイケアは利用する事が出来ました。送迎を工夫してもらったり、時間の調整をしてもらったりと

支援が途切れることはありませんでした。



さて、実際のショートステイご利用時の様子ですが・・・

いったん承諾したはずなのに、本人は全く状況を理解出来ずにいました。

「なぜ、私はこんなところにいるのだろう？」と、頭の中は疑問でいっぱいです。そもそも、ご自宅の環境が大変だということ自体、本人は気づいていないし、気にもとめていません。落ち着きもなく、何度も動きまわるため、職員も大変で、ショートステイの利用はうまく出来たとは言えませんでした。

ふたみ老健からも、この状況をみて「ちょっと無理かも」とのお返事。他の事業所でのショートステイも調整した事もありました。ただ、自宅での様子は全く変わらずで、ショートの利用中以外は、あの環境で生活しなければならないのです。



でも、やはりいろいろと心配をしてもらっていた、ふたみ老健で、もう一度チャレンジしてみたいと思い、今度は3階：認知症棟でのご利用を調整しました。ふたみ老健からは、「以前の様な事になったら、利用は難しいかもしれませんが、協力します」とのお話を頂きました。

そこで、実際にショートをご利用頂くと・・・これが意外とうまくいったのです。

以前の様に動き回る事も、戸惑いの表情を見せることもありませんでした。

きっと、施設の職員に慣れてきたのだと思います。



さて、ここからはトントン拍子に話が動きました。

元々、関わった職員全てが「何とかしなければ」と思っていたケースです。ご利用への懸念がなくなれば、あとは、それこそ勢いです。

ついに、ふたみ老健への入所が叶いました。



今では、施設での生活にすっかり馴染んでいます。

「自宅で暮らしたい」思いは誰にでもあります

が、その環境を整える事が困難な場合、「自宅以外で生活」

という選択肢もあって良いと思うのです。

今回のケースでは、各事業所の協力を得て、施設での

「快適な生活」を提供する事が出来ました。

この様な支援が出来た事で、今後にもつながっていくと思います。

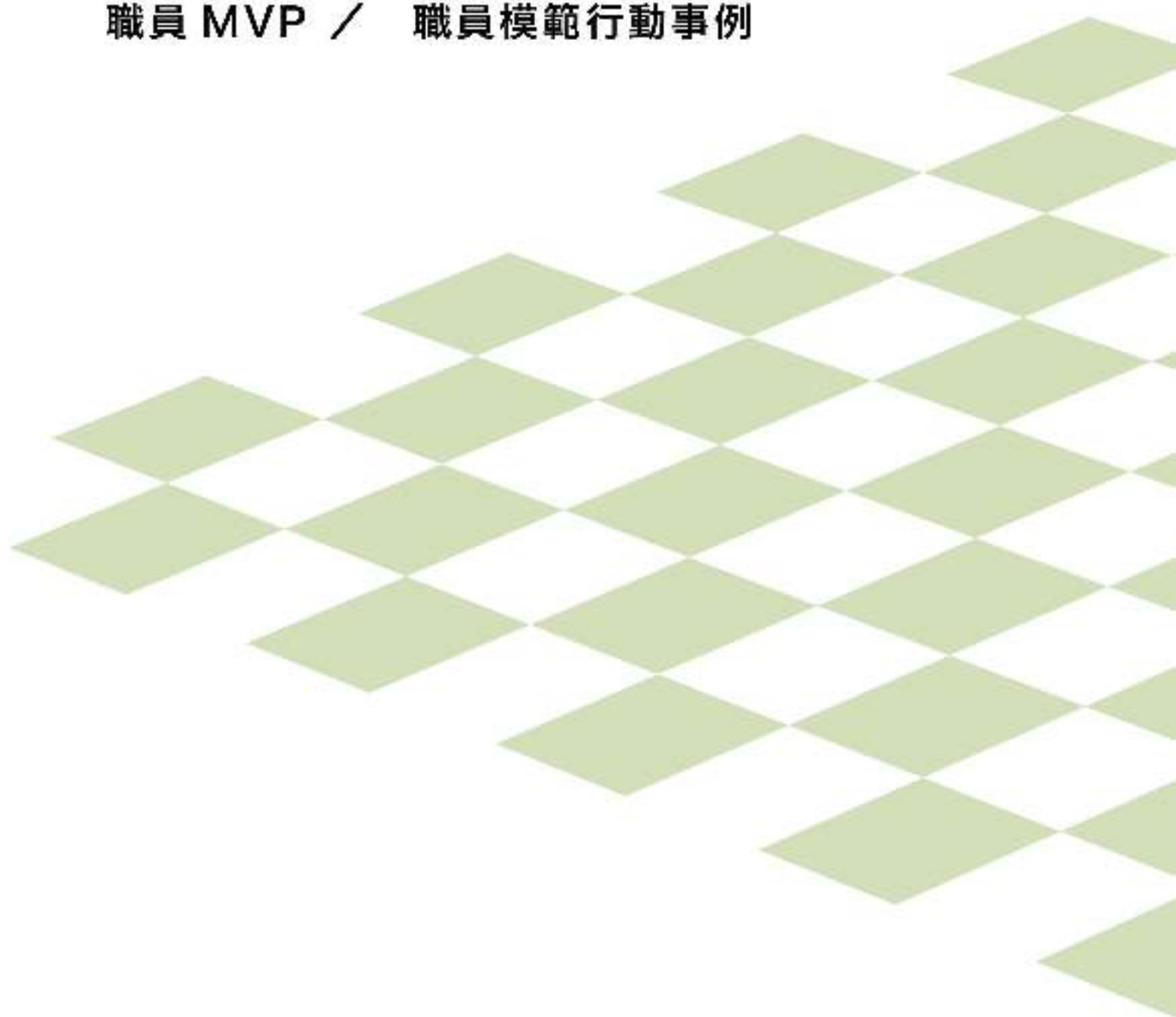
写真をお見せできなくて残念ですが、今、とても穏やかな

表情で過ごされているご本人が、それを物語っています。

ご清聴
ありがとう
ございました

ONE WAKE RECITAL
SETSUGU COMMITTEE
2018

職員 MVP / 職員模範行動事例



1つ WAKE AWARD 2018 職員MVP

職 員 名	所 属 事 業 所	No
つまちなか地域総合相談センターの皆様	つまちなか地域総合相談センター	117
谷口 真奈美	第二はなこま保育園	110
福田 稔	法人本部経営企画室	90

職員 MVP



つまちなか地域総合相談センターの皆様（左側）
谷口 真奈美（中央） 福田 稔（右側）

受賞事例（No.117）

ある日、センターパレス窓口 つまちなか総合相談窓口に、ある婦人がご主人の靴を見に来られました。ところが、靴のサイズが合いません。とても気に入っていただき、取り寄せることになりました。また、受け取りに来ていただけたということでしたが、本町福祉用具の中島さんは、そのご婦人のご主人様が入院されている事を知ると、入院先まで靴を届けてもらったとの事。数日後、ご家族が当センター窓口まで来所され、「豊寿園さんのケアマネジャーさんに是非担当してほしい」と仰っていただきました。お話を伺うと「靴ひとつで、わざわざ遠いところまで届けて下さった。こんな親切な対応をして下さるところはとても信用できる場所だと思って」と有難いお言葉をいただきました。開設から2年経過しました。私たちが描いていた夢が一つ実現しました。感動しました。日ごろから、親切で想いのこもった対応をしていただいていることを、同じ職員としてとても誇りに思います。福祉用具という、いわばなくてはならないが、決して主張をしない、ご利用者だけでなく、私たち支援する者たちにも、心強い支えです。このような形で、職員の皆様の努力が報われたと思うと、感慨ひとしおでした。

受賞事例（No.110）

季節や地域の文化、風土に応じて開催される保育園の様々なイベントは、子どもたちがその瞬間を喜び、保育園での良き思い出となってほしい、そんな保育園の職員の想いのほか、一方では多くの体験と学びを通じ、子どもたち一人ひとりの成長促進の役割も大いに担っていることかと思えます。その中で今回是非ご紹介したいのが第二はなこま保育園の谷口真奈美保育士です。まずホームページのブログや記録写真に写る、各イベントごとでの表情やその立ち振る舞いのから、彼女の保育園での様子がおのずと想像できます。敷地内の高齢者施設との交流会でのクオリティーの高い仮装での登場や、「桃太郎」の劇での鬼役のその迫力ある演技力、そして実際保育園を訪ねたときの、遊戯室や保育室、多目的グラウンドなど、行く先々その場面ごとでひととき輝く存在感を放っている彼女。彼女の魅せるそのパフォーマンスは子どもたちの心をつかむだけでなく、自らもそれを率直に楽しみ、共に働く保育士ともそれらを共感しているところに意味があるかと思えます。今や第二はなこま保育園、保育事業部には欠かせない存在として活躍されており、その姿勢はまさに後輩職員への鑑ともいえ、見習うべき模範ともいえる行動と感じています。

受賞事例（No.90）

ホームページの閲覧件数が月間 1 万件を超えたご報告は先般いたしました。今回は、その後日談ともいえる出来事です。当法人は、全国社会福祉法人経営者協議会という団体に所属して事業を運営していますが、その会員誌「経営協」の特集記事の中に、「『社会福祉法人としての広報』を見直し地域からの理解を深める」と題して、論文が掲載されました。執筆したのが総務課の福田上級リーダーです。ここに至る経緯も、当法人のホームページが、数ある社会福祉法人の中でも抜きん出ていることが評価されてのことです。法人の活動や取り組み等をタイムリーに発信続けた結果ではありますが、これも一重に各事業所の広報委員をはじめ、職員の皆さまからの暖かいご協力、ご支援があったからこそそのことであります。情報無くしてはありえません。今後も充実したホームページを維持、発展させてまいりますので、引き続きのご支援と感謝の気持ちをこめて、今回ご紹介させていただきました。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

2018年職員模範行動事例

No.	事業所	職員名	模 範 行 動
61	しまの杜保育園	濱口 さおり	濱口先生は現在、育児休暇中で1月に復帰予定です。先日保育園の夏祭りがあり、毎年職員の出し物をしていますが、出し物のプロデュースを濱口先生が担当をしてくれていました。今年の出し物はどうしようか考えていた時、育児休暇中の濱口先生が保育園に来てくれたので「何か良い案はある」と尋ねると「構想はできていますよ、私が考えてもいいですか」と即答でした。迅速な対応をしてくれて、とても盛り上がる夏祭りになりました。育児休暇中でも保育園のごこと、職員のごこと、園児のことを考えていくことに感謝しました。
62	しまの杜保育園	中北 優子	濱地上総リーダーからの事例です。子育て支援センター わくわくの森の担当の中北先生は、トイレットペーパーやペーパータオル等の日用品の荷物が届き、事務所に置いてあると、自ら倉庫に収納してくれました。日用品管理担当の職員はいますが、中北先生は「保育をしてくださる大変だから私しますね」と笑顔で言ってくれます。皆さんとても感謝しています。このような事が自然とできる行動は、他の職員の模範となっています。
63	鈴鹿訪問看護ステーション	大橋 朋子	佐藤上総リーダーからの事例紹介です。7月20日（木）14時40分、訪問先近くのバス停でご利用様が登り込んでいるのを大橋看護師が発見。最寄り駅、駅も異なり状況で日頃行っていた状況でした。意図はあり、話を聞くと9時に自宅を出発し、停りのバスが来ず1時間以上は待っていたというところでした。大橋看護師は、意識状態の確認後、自宅まで送り届け水分補給などの応急処置を行い、回復の確認ができるまで対応にいただきました。この日も三重県では最高気温31℃を記録し熱中症のリスクが高く、対処が遅れれば命に関わるようになっていたと思います。早期発見と初期対応のスキルの高さに模範行動事例として紹介させていただきます。
64	ふたみ介護老人保健施設	上野 美代子	ある職員からの紹介です。居室清掃、シーツ交換を主にいただいているパートの作業員さんです。介護員とは違いご利用者への直接的な援助はしませんが、介護職員が不足する中、業務の機き分けを考慮するを得ない現状においてもとても大きな存在になっています。そのような立場の作業員さんとして丁寧に業務にあたっていたのですが、ある日シーツ交換の合間に通りかかったご利用者の話を、とても親身になって聞いてくれていた姿を見ました。ご利用者様にとっては介護員であらうが作業員であらうが、正規職員であらうがパート職員であらうが関係なく、施設の同じ職員として見えています。そのような立ち位置を十分理解した上で、出来る範囲で日々真摯に仕事に向き合っている姿を職員として見習いたいと思います。
65	きらめき工房いが	上須 さとみ	今回紹介させていただくのは、2年目の上須支援員です。上須支援員は、とても話しやすい方で気が配りができる方です。入職された当初、話をさせて頂いた中で「相手の立場に立って物事を考えるようにしています。」と言われていました。その言葉の意味が今分かるような気がします。いつもまっすぐに相手と向き合う姿勢に、みんなが信頼を寄せています。
66	志摩介護老人福祉施設	西井 健太	志摩シルバークア豊岡園では、特別看護老人ホームとして多くのご入居者の最期をお看取りさせていただきま。この約3年の間に42名の方のお看取りをさせていただきました。告別式にも参列させていただきましたが、志摩地区老人介護事業部では初詣のお参りに老ご自宅まで行かせていただくのが慣例となっていました。今年もたくさんお参りをさせていただく予定でした。毎年の事なのですが、志摩特長としては故人のご自宅を押し上げない状況がほとんどなのです。と言いますのも、入居時にはその方が利用されている施設や事業所にお迎えに行ったり、ご家族様の送迎で来られたりという事がほとんどで、ご自宅までお迎えに行く事があまり無いのです。その結果、初詣参りに初めてお邪魔する事になるのですが、当日は探して迷って聞いての連絡でなかなかたどり着けない事も多くあります。今年もある程度送迎は覚悟していたのですがかなり順調にまわりました。それは西井健太リーダーが業務終了後に、自主的に前もって下見に行ってくれたからです。自身の事を法人のホームページで、“石橋を叩いて叩いて渡らない”と自身の性格を分析していますが、堅実な仕事ぶりが頼もしいかぎりです。
67	白塚通所介護センター	工門 多喜子	田中育子リーダーからの報告です。8月22日、担当ご利用者のモニタリング訪問時にご家族様からお礼の言葉がありました。内容は8月11日のデイサービス終了後、自宅へ送迎した際、便所が臭い、トイレを掃除させて頂きたいと交換し、その交換を代わって頂いて下さるという事で、お礼を言われた事に感動しました。と、この事でした。工門介護員に感謝すると「ご家族様は排泄介助が苦手である事と聞いていた事を思い出し、声掛けをしておくと交換をさせてもらいました」との事。工門介護員の人格や明るい性格から普段よりご家族様との会話を大切に、ご利用者様の一日の様子や世間話を交えつつ信頼関係をしっかりと構築している姿が伺えます。今回、一歩踏み込んだ模範的に対応にご家族様から「大変、嬉しく感じ一言お礼を伝えて下さい」とのお言葉を頂きました。
68	法人本部 総務課	福田 稔	皆さんは、当法人のホームページを毎日1回はご覧いただいていますでしょうか。ホームページはご存知のように、多くの人々に見てもらってこそ存在意義を発揮するものですが、今年度の開業新報が、8月11月間で、初めて10,000件を超えるという偉業を達成しました。その立役者のひとりとして福田上総リーダーです。ホームページの運営については、実は総務課の所管になっていて、日英業務といえはいるのですが、絶対に1ヶ月10,000件を必ず達成するとの強い信念のもと、常にアンテナを高くし、「ブログ」の管理に言及に及ぼす。「洗心ニュース」や「働く人の声」の編集、更新など地道な努力を毎日重ねてきました。高い目標を自ら掲げ、己を鼓舞しつつ、仕事に心血注いでいる姿は、まさに若手職員が手本と言えると思い、やや我田引水ではありますが紹介させていただきます。合わせて、ご協力いただいた皆様にも感謝です。
69	ふたみ介護老人保健施設 しまの杜こどもセンター	上野 梓 職員の皆様	先日、しまの杜こどもセンターのこどもたちが退園の途中、ふたみケアサービスセンターに立ち寄ってくれました。通所1ハビリの外のウッドデッキで小さなお客様たちが行儀よくお昼ご飯を食べ、お年寄りたちと一緒に時々ごみの時間をくれました。子供たちの訪問を知って、ふたみ老健の上野さんはウッドデッキに『よ・う・こ・こ・そ・ふ・た・み・へ』と歓迎の言葉と、子供たちの喜んでくれそうなかわいひ絵を掲げて迎えてくれました。何気ないことですが、歓迎の気持ちで伝わったと思います。やってきた子ども達も、普段は個性豊かな元気な子ども達ですが、きちんと挨拶ができ、秩序をもって行動できていてとても好印象でした。同じ法人内で相互に良い交流ができたと思い、ここに紹介しました。
70	伊賀訪問介護ステーション	西山 貴之	事業所の管理者であり、法人のリーダーである彼は、入職以降、訪問介護一筋の職員です。そんな彼ですが、今年の9月に新たな配属先に異動しました。今回で4年目の訪問介護ステーションとなり、4年間の訪問介護員としてスタートした彼ですが、今や事業所を代表する管理者のひとり、そんな彼が異動し直したのが先日朝の集まり指導です。ご利用者様も分かります。土曜日もないまま日々の業務と並行しながら実地指導の準備を進め、彼は当日を迎えました。しかしながら彼は、三重県の指導監督担当からへの異動に対して毅然とした態度と的確な受け答えし、これまで得てきた知識と経験を如何にか発揮してくれました。同席していた前任者や同僚もその姿に感心していた一方、成長した彼の姿が非常にたのしく見えました。短い期間で事業所を理解し柔軟に対応できたことは、まさにこれまでの彼の努力の結果であり、法人の求めるリーダー像、管理者像ともいえます。今後のさらなる飛躍に一層の期待をもち、改めてこの場にて紹介させていただきます。
71	津介護老人保健施設	荒木 麻里	ずっと病院勤務をしていた荒木看護師ですが、ご縁があって現在老健でパートとして働いて頂いています。病院では認知症の方と関わる機会がありませんたという事で、認知症についての本を購入したり、休日の日に認知症の研修に参加したりと、理解を深めるための勉強を怠らない姿勢と、専門職としての意識の高さに頭が下がる思いです。
72	鈴鹿訪問看護ステーション	岩本 麻子	佐藤上総リーダーからの事例紹介です。今回は、制度についての知識を得ようと積極的な岩本看護師のファインプレーについて報告させていただきます。8/27の法人HPのブログにて、平成29年8月から高齢者養費制度の変更について制度説明をさせていただきました。日々、法人のHPを見ている岩本看護師が、ブログ内容を事務所です話したことがきっかけで、ご利用者の請求金額が変わることがわかり、請求ミスを防ぐことができた。これ、制度の流れを敏感に察知し発信しているブログをチェックしている岩本看護師のおかげです。事業所は離れていても、臨ながら支えてくれているプログラムの存在のありがたさとともに岩本看護師に感謝する出来事でした。
73	嬉野保育園	大藤 礼子 前川いづ子 宮林しのぶ 高島 里香	嬉野保育園では給食業務を4名の調理員で担当しています。年々食物アレルギーも多様化しており、一人ひとりの症状に合わせて対応しています。生産ラインを通った物も除去が必要なお子さんもお見え、一つひとつの食材のライン確認が必要になっておりますが、4名の協力し業者もしっかり確認したり、調べたりして毎日見落とすことなく食事を提供してくれています。これも4名が責任感を持って、協力し合って仕事をしてくれているからだと思います。
74	つまちなかこどもセンター	伊藤 智子	毎日、朝7:00から勤務して頂いている伊藤先生は、マニュアルで決まっている掃除や消毒はもちろんですが、それ以外にも、7時に登園する子供がいない時や、手が空いた時など、今日はここ、次はこの場所と自分で決めて、きれいに拭いたり、消毒したり、してくれています。普段気づかない隅々や玩具の細かい部分まで、きれいにしていたにいます。つまちなかこどもセンターは、窓の開閉ができないうえ、小さいお子さんたくさんお預かりしている中にもかわらず、感染症の流行する時期でも園での流行がみられないのは、このように見えないところで気をつけてくださっている方たちのおかげだと感じています。
75	甲賀訪問介護ステーション	森井 加織	昨年8月に滋賀県甲賀市で事業運営を開始し、1年1年が経過しました。現地では特別看護老人ホームの整備中であり、来春にはショートステイやデイサービスを兼ねた複合施設としてオープンを予定しています。彼女はその甲賀シルバークア豊岡園の訪問介護ステーションに配属されており、一方で法人の広報委員会の委員のひとりです。現在、彼女を含めた各地区の広報委員は、委員の役割として、ホームページに約1ヶ月に1回自分たちで作成したブログを投稿しています。日ごとの業務を遂行しながらのブログ作成も大変な中、彼女はそれとは別に、甲賀シルバークア豊岡園の日常の様子をブログで投稿していただいています。投稿は不定期ではありますが、甲賀シルバークア豊岡園の地域での活動のほか、地域が開催する祭りやイベントへの参加、そして日常の職員の様子など、写真と文章で上手く表現してくれています。法人として初の県外事業、そして新たな挑戦に奮闘する甲賀シルバークア豊岡園の様子を、こうしてタイムリーに伝えていただくには、もちろん地域へのPRにもなりますが、一方で法人間の共有にも繋がります。そんな取り組みを続ける彼女と、それに協力する事業所の職人皆様を、今回ご紹介させていただきます。
76	はなこみ放課後児童クラブ	三田 智恵子	皆様は当法人のホームページをご覧いただいていますでしょうか？法人の新規事業や地域の活動を紹介する「法人ニュース」のほか、「日々のブログ」では各事業所の取り組みや職員の様子などを、タイムリーに情報発信しています。最近、特に夏休みを中心に、学童保育の内容が多かったことをお気づきでしょうか？当法人の学童保育は県内3箇所ありますが、専属の広報委員がいるわけではありません。しかし保育園同様に、いわゆる「待機児童」が増える今、もはや保育園の付属事業ではなく、ひとつの学童保育として、法人の立ち位置や在り方も年々変わりつつあります。その中で、少しでも学童保育の様子を多くの皆様にお伝えしたい、そんな思いから彼女に何回も相談したところ、日々の業務の合間にイベントや日常の写真を、内容付きで送っていただくようになりました。そのおかげで、学童保育のブログは充実し、これまで以上に多くの内容を皆様に発信することができました。今日までのアクセス数増加の後の伸びのひととして、結果的には繋がっていったと感ずています。そんな彼女の学童保育の想いから生まれた形ながらの支援に対し、改めて感謝を込めて今回ご紹介させていただきます。
77	つまちなかこどもセンター	大市 由衣	つまちなかこどもセンターの専用駐車場は、フェニックス通りに面している、駐車場の前に路上駐車をする人が多く、保護者の方の送迎時に妨げとなることがよくありました。夕方、お迎えの時間に職員が交代で駐車場のところを立て、妨げにならないようにしています。10月3日は、大市保育士が担当で、いつものように立っていただいていたのですが、バトロが駐車場の真ん前に停まり、警察官が2人も降りて、どこかに行こうとしたので、一瞬戸惑ったのですが、バトロでも同じだと思っで、「ここは保育園の駐車場で、保護者の方車を止めるべきなので、移動してください。」とお願いしたところ、そうでした。最初は「何？」という感じだったけれど、説明すると、承諾して移動してくれたとのことでした。ありがたいことなので、大切なことだと感じました。
78	新高茶屋短期入所生活介護	前本 大喜	ある職員からの紹介です。新高茶屋短期入所生活介護の前本介護員ですが、業務上の話をする際「お待ちください」と言い、メモ用紙とペンを出し用意ができることとお断りします」と言いメモを取ります。その理由は書き置きしたことででもバタバタの状態で業務を行うと、大事なことを忘れてしまうことがないようになにメモを取るの、業務を円滑に進める気持ちがあるからだと思います。また、他職種連携の上では重要なことでは、伝えにくい所からはメモを取ってくれる（伝わる）という安心感も生まれます。何よりご利用者様に迷惑が掛からないように努めている姿勢が素晴らしいと思い報告させていただきます。この事例をきっかけにメモを取る大切さをもう一度周知していきたいと思っています。
79	伊勢市東地域包括支援センター	番楽 美咲	番楽さんは法人に入職して2年目の若い社会福祉士です。老健で昨年1年、現場経験したところで今年の4月、ふたみ包括支援センターに異動になりました。包括支援センターは様々な相談を受け、広く地域に出て支援を求められる部署です。右も左も分らない中、見よう見まねで先輩たちの後について毎日必死で仕事を覚えつつ今に至っています。当初は積極的に電話を取る姿勢にまず感心しました。対応できる電話はほとんどないとなつたことと上総、1番に電話を取り、明るく挨拶をして先輩に取り次ぐということを毎日書いていました。また、分からない事にしり込みせず、仕事に当たりながら毎日の中で、徐々に仕事の身も分かってきて、今では自分の足場を固めつつあるように思います。まだまだ困ったことや分からないことが沢山あると思いますが、包括チームの先輩達が熱心に育ててくれると同時に、自分自身の熟慮も自分育てているように思い、ここに紹介しました。
80	志摩介護老人福祉施設	山本 正喜	大野木千鶴リーダーからの紹介事例です。10/1の早朝、大野木リーダーは「ご利用者様がベッドから転落、頭部より出血されています。」と夜勤者より報告を受けました。幸い傷は深く、意識もはっきりされているとの事でした。止血とベッド上安静の指示を出し早めに出動すると、管理担当の山本さんがすでに処置室を医務室から居室に連れて来ていて、時間の無駄なく処置が完了しました。山本さんは今回ばかりでなく、常にご利用者様や職員の事を一番に考えて行動してくれました。あるときは寝たきり状態のご利用者様の見守りや言葉掛けをしてくだりと、職員が困らないうちに先々に立って手伝ってくれました。山本さんのような行動は、周りの者の心を癒し温めてくれる行動です。皆が山本さんのような心配りができれば良いなと思います。本当に良いお手本です。

2018年職員模範行動事例

[illegible]

[illegible]

2018年職員模範行動事例

No.	事業所	職員名	模 範 行 動
121	ふたみ居宅介護支援センター	吉川 優美	ふたみ居宅介護支援センターでは先日、高齢者向けの配食弁当サンプルを頼みケアマネジャー全員で試食をしました。その際、吉川ケアマネジャーは業者へのサンプル依頼に始まり、当日取り分け用の紙皿を自ら準備したり、急きょ外出してしまった関係のために普通食、減塩食、カロリー制限食、カロリータンパク制限食をそれぞれ食べ比べできるように少しずつ取り置いたり、その後の事務的な事まで一手に引き受けてくれました。誰かがするべき当たり前の事ではありますが、とても自然体で行き届いた心遣いだったのでここに紹介しました。
122	豊野保育園	林 美恵子	林先生はパート職員で、現在1歳児クラス担当で1日勤務してもらっています。豊野保育園で最年長となられますが、毎日いききと子どもたちと接してもらっていて、子ども達も、もちろん先生が大好きです。机や椅子の出し入れや活動に合わせた設定も段取りよく、そして、素早くしてもらっています。「腰とか痛めないようにして下さいね」と声をかけると「ありがとうございます！私、頑丈なんやわ」と笑顔で答えられ、てきぱきと動かれる姿は、本当にすごいなと感じます。寒いこの時期も、毎日自転車で通われ、毎朝ポストを見て下さり、さわやかな声で「おはようございます！これから来たわ！」と郵便物を渡してくれると、今日も1日頑張るぞ、そんな気持ちになります。年配の先生が、体を動かしいききと動かれているその姿を皆で見習っていききたいと思います。
123	はなこま保育園	服部 増美	今回、紹介させて頂きますのは パート保育士の服部先生です。この方、裁縫はお手の物で縫物を頼むと快くしてくれます。それだけでなく、生活発表会の衣裳作りでも苦手とする職員には親身になって教えてくれ、自らも引き受けてくれています。最近も おまごこで使うかばんを作ってくれ、今 子どもたちは嬉しそうに持って遊んでいます。お礼を伝えると、「こんな物があれば遊びが楽しくなるだろうな、と思うと作ってあげたくて…。嬉しいですね。」との返答。作ってあげたいと思う気持ち、それを形にしてくれる子どもへの思いが素晴らしいと思います。
124	嬉野保育園	三谷 千晶	上級リーダーからの紹介です。今年度、嬉野保育園のブログを担当している三谷保育士は、季節に応じた園のさまざまな様子を紹介しようと、日々頑張ってくれています。試行錯誤を重ねながらの取り組みでしたが、今ではブログの内容を次々と自分で計画し、先々へと準備を進めてくれています。又、色記事の様子を聞いて書くだけではなく、実際自分と一緒に取り組んで様子を伝えてくれています。責任感を持って積極的に取り組む姿勢に、これからますますの成長を期待したいと思います。